
ごあいさつ

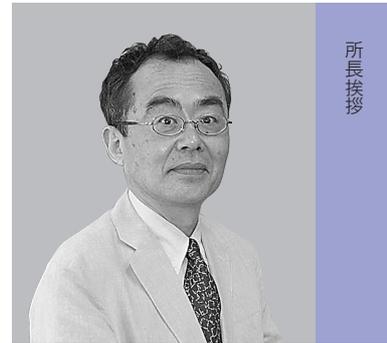
東洋文化研究所の使命は、人文社会科学のさまざまな専門分野を総合しアジアの過去・現在・未来を研究することにある。研究がカバーする地域は、東アジアから中東まで広がっている。中東というとエジプト、北アフリカも当然視野に入ってくる。行政とちがって研究には、地図上ではっきり定まった管轄範囲はない。アジアを中心に世界を研究しているのである。

アジアとは何かという疑問は、人々のあいだに絶えず浮かんでくるものである。中東はアジアの一部なのか、トルコはアジアなのかヨーロッパなのか、ロシア領シベリアはどうか、中央アジア諸国はどうか。どこに立ってアジアを語るか、何のために語るかによっていろいろな答えがあり得る。日本は地理教科書による世界の区分けでは当然アジアに入っている。だが明治以来今日まで、日本はアジアだという主張もあれば、日本は他のアジア諸国とは違うという主張もあった。国際政治の世界でアジア太平洋という言葉がしばしば使われるのも、アジアがあらかじめ定まった堅い実体ではないことを物語っている。地名、地域名は中立無私なものではなく、さまざまな主張を含んでいると考えたら良いだろう。政治的主張を掲げることはわが研究所の使命ではない。だが日本の学問教育の発展のためにはアジアを中心に据えた世界への視野が必要だという研究上の使命感をもって、これからも進んでいきたい。

2008年4月

所長 関本 照夫

東京大学
東洋文化研究所



所長 挨拶

所長
関本
照夫

研究部門

本研究所は 1941 年 11 月 26 日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設されました。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足しました。1949 年、新たに 3 部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の 6 部門に再編成しました。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかりました。

ついで 1951 年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられました。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた 8 部門に再編成しました。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960 年には南アジア政治・経済部門、1964 年には東北アジア部門、1968 年には西アジア歴史・文化部門、1973 年には東南アジア経済・社会部門、1978 年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13 部門を擁するにいたりました。

さらに、アジア地域全体が世界のなかでしめる重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となりました。そこで、1981 年に新しい構想にもとづく大部門制を採用し、それまでの 13 部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の 4 部門に統合して再出発し、今日にいたっています。

附属 東洋学研究 情報センター

1999 年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という 2 つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設されました。1966 年の設立以来東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれています。さらに、アジア文化研究にとって不可欠な絵画・考古資料等を対象とする造形資料学分野が新しく追加されました。これら両分野での研究成果は、アジア研究のための基礎的研究情報として世界に発信されています。

建物

創立以来 23 年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままでしたが、1967 年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5 階以上を本研究所が使用することになりました。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などにもとない、狭隘な施設の改善、とくに書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983 年にいって総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになりました。これにもとなって全面的に改修工事を行い、1984 年 3 月に工事が完成しました。本研究所の建物は総面積 6,577 平方メートル、地下 1 階より地上 8 階までの 9 層からなります。

2006 年 2 月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年 7 月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007 年 8 月から耐震補強・改修工事を開始し、2008 年 3 月に工事は完了しました。

歴代受賞者

歴代所長

文化勲章・文化功労者・学士院賞を受賞した本研究所の教員は次の通りです。

文化勲章

江上 波夫 1991年
中根 千枝 2001年

文化功労者

辻 直四郎 1978年 (併)
江上 波夫 1983年
山本 達郎 1986年 (併)
川野 重任 1993年
中根 千枝 1993年
板垣 雄三 2003年
斯波 義信 2006年

学士院賞

仁井田 陞 1934年
宇野 圓空 1942年
山本 達郎 1952年 (併)
周藤 吉之 1956年
福島 正夫 1963年
鎌田 茂雄 1976年
荒 松雄 1978年
池田 温 1983年
鈴木 敬 1985年
田中 一成 1993年

桑田 芳蔵 1941. 11. 26—43. 3. 31
宇野 圓空 1943. 4. 1—46. 10. 5
戸田 貞三 1946. 10. 6—47. 9. 30
辻 直四郎 1947. 10. 1—54. 3. 31
仁井田 陞 1954. 4. 1—58. 7. 10
飯塚 浩二 1958. 7. 11—60. 7. 9
結城 令聞 1960. 7. 10—62. 7. 9
江上 波夫 1962. 7. 10—64. 7. 9
飯塚 浩二 1964. 7. 10—65. 2. 28
小口 偉一 1965. 3. 1—66. 3. 31
川野 重任 1966. 4. 1—68. 3. 31
小口 偉一 1968. 4. 1—70. 3. 31
泉 靖一 1970. 4. 1—70. 11. 15
川野 重任 (事務取扱) 1970. 11. 16—70. 12. 17
鈴木 敬 1970. 12. 18—72. 3. 31
荒 松雄 1972. 4. 1—73. 3. 31
窪 徳忠 1973. 4. 1—74. 3. 31
佐伯 有一 1974. 4. 1—76. 3. 31
大野 盛雄 1976. 4. 1—78. 3. 31
深井 晋司 1978. 4. 1—80. 3. 31
中根 千枝 1980. 4. 1—82. 3. 31
大野 盛雄 1982. 4. 1—84. 3. 31
尾上 兼英 1984. 4. 1—86. 3. 31
山崎 利男 1986. 4. 1—88. 3. 31
斯波 義信 1988. 4. 1—90. 3. 31
池田 温 1990. 4. 1—92. 3. 31
松谷 敏雄 1992. 4. 1—94. 3. 31
後藤 明 1994. 4. 1—96. 3. 31
濱下 武志 1996. 4. 1—98. 3. 31
原 洋之介 1998. 4. 1—2002. 3. 31
田中 明彦 2002. 4. 1—2006. 3. 31
関本 照夫 2006. 4. 1—現在

研究活動一覽

東洋文化研究所では、各所員が独自の研究を進めるとともに、所内での共同研究や所外の研究者との研究協力を積極的に行い、次のようなさまざまな形態の研究活動を推進しています。

A 「21世紀アジアの研究」プログラム

これまでに培われてきた研究の成果を新たに組み替え、活性化すべく、所内研究者が既存の研究体制の枠を越えた4つのグループに分かれ、21世紀アジアについての研究プロジェクトを鋭意進めています。現行のプログラムは、2006年度に発足したものです（右ページ参照）。

B 部門研究

所内の汎アジア、東アジア（第一）、東アジア（第二）、南アジア、西アジアの各研究部門と附属東洋学情報センターでは、それぞれの課題を掲げ、地域的・学際的な研究を共同して行っています。

C 個人研究

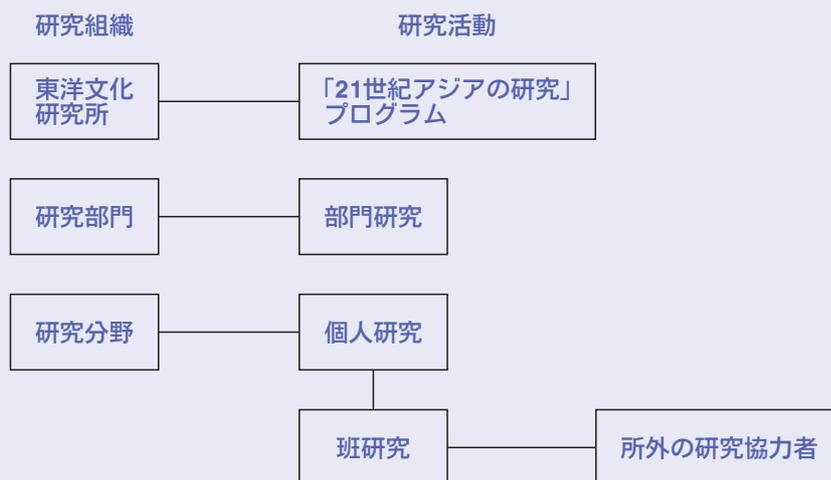
所員は個々の専門地域・分野において最先端の研究を行っており、その業績は国際的にも高く評価されています。

D 班研究

各専門分野の研究を推進し所外の研究者との交流を深めるため、所員を主任とする班研究会が特定のテーマごとに数多く設置されています。

E 外部資金による研究

所員は文部科学省科学研究費補助金やさまざまな外部の研究助成・奨学金に積極的に出願しており、多くが採択されて重要な成果を上げています。



先端地域研究 プログラム

「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」

かつて植民地支配下にあったアジアの多くの国々では、一次製品の生産と輸出に依存する経済と社会が形成されました。第二次大戦後の独立・脱植民地化とそれに続く工業化の波の中で、これら伝統的輸出産業がどう変容・再編成されてきたか、事例研究により検証します。

責任者 加納 啓良

メンバー 池本 幸生 高橋 昭雄 中里 成章 安富 歩

新分野開拓研 究プログラム

「アジアにおける幸福論・幸福観の総合的研究——過去と現在——」

幸福という問題は身近でありながら、学問の世界では敬遠されています。アジアのさまざまな地域で幸福がどんな風に論じられ感じられてきたのか、そして現在から未来に向けどんな風に語ることができるのか。このことをさまざまな専門分野の協力で研究します。

責任者 関本 照夫

メンバー 永ノ尾信悟 大川 謙作 丘山 新 鎌田 繁 田中 明彦
名和 克郎 橋本 秀美 馬場 紀寿 玄 大松 古井 龍介
松田 康博 森本 一夫

超域連携研究 プログラム

「アジアの「美」の構築」

美術、文学、音楽に表象される「美」とは、社会的、政治的、経済的に、いかようにも構築されるものです。本プログラムでは、「美」の具体的な構築の道筋、技法、仕掛け、思惑というものを、アジア諸国を例に比較検討することを目標としています。

責任者 板倉 聖哲 菅 豊 柘屋 友子

メンバー 小川 裕充 高見澤 磨 松井 健 山内 文登

資料情報研究 プログラム

「アジア書籍の電子図書館化とその多角的活用法の研究」

当研究所は、豊富なアジア学の図書・文書・図像資料を保有しています。保存に留意しつつ効果的に閲覧サービスを提供するという責務を果たすために、現在精力的に電子化の作業を進めています。それを電子図書館として提供し、多角的に活用するための方法を探求します。

責任者 尾崎 文昭 平勢 隆郎

メンバー 大木 康 小寺 敦 鈴木 董 松田 訓典

汎アジア部門

「アジア諸地域における社会・文化の変容過程」

汎アジア部門は、アジアを広く対象とし、経済学・政治学・人文地理学・文化人類学・比較思想といった社会科学・人文科学の諸分野における研究を深めるだけでなく、最先端の学際的な研究をも展開しています。同時にこの部門ではアジアのアジア研究者とのネットワーキングにも力を注ぎ、アジア研究の地域的ハブとしての機能を担おうとしています。日本も重要な研究対象としています。

経済・統計研究分野 教授 池本 幸生

国際政治研究分野 教授 田中 明彦 准教授 松田 康博

08年4月から

人文地理学分野 教授 松井 健 教授 菅 豊

文化人類学分野 教授 関本 照夫 准教授 名和 克郎 助教 大川 謙作

東アジア部門
(第一)

「東アジアにおける国家権力と社会経済構造」

東アジア第一部門は、中国、朝鮮、日本、ときにはベトナムを含む東アジア世界を総体として取り上げ、社会科学的方法によって過去から現在に至る動態を把握することを目標とします。この研究では、とくに東アジア第二部門と協力して、学際的な地域研究による生きた全体像を目指すことは言うまでもありません。

経済・社会・政治過程研究分野 教授 高見澤 磨 准教授 安富 歩

歴史研究分野 教授 黒田 明伸 准教授 真鍋 祐子

考古研究分野 教授 平勢 隆郎 准教授 小寺 敦

東アジア部門
(第二)

「東アジアにおける庶民文化の形成と展開」

東アジア第二部門は、中国を中心とする東アジア地域の思想、宗教、文学、美術を研究対象とする部門です。「庶民文化の形成と展開」を課題とした部門研究においては、各研究分野で独自の検討をするとともに、共同してその解明を目指しています。

宗教、思想研究分野 教授 丘山 新 准教授 橋本 秀美

文学研究分野 教授 尾崎 文昭 教授 大木 康 助教 山内 文登

美術研究分野 准教授 板倉 聖哲

南アジア部門

「環ベンガル湾地域における文明・文化の交錯」

南アジア部門は、インド亜大陸を中心とする狭義の南アジア地域とともに東南アジア地域をも研究の対象にしています。この地域は多様な言語と文化をもつ人びとが複雑な社会を形成しているうえ、大部分の国々が欧米の植民地支配を経験し第二次大戦後に独立を勝ち取ったという歴史的経験をもっており、こうした事情の理解なしには現状の把握も不可能です。このため、本部門は政治・経済・社会・文化などの広範な分野にわたってこの地域の過去と現在を探求することを共通の課題としています。

経済・社会、政治過程研究分野 教授 加納 啓良 教授 高橋 昭雄

歴史・考古研究分野 教授 中里 成章 准教授 古井 龍介

宗教・文化研究分野 教授 永ノ尾信悟 助教 馬場 紀寿
08年4月から

西アジア部門

「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」

西アジア部門は、アフガニスタンからトルコ・エジプトまでの地域、いわゆる中東を研究対象とし、あわせて内陸アジアをも対象のなかに包含します。この広大な地域の政治、経済、文化、社会を、学際的研究によって総合的に理解し、その特質を解明することが本部門の目的です。そのために各自が独自の立場から個人研究を行うとともに、「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」を共通の研究題目とする共同研究が実施されています。

経済・社会、政治過程研究分野 教授 鈴木 董 教授 長澤 榮治

歴史・考古研究分野 教授 羽田 正 教授 柁屋 友子

宗教・文化研究分野 教授 鎌田 繁 准教授 森本 一夫

東洋学研究情報センター

「アジア資料学の構築」

(東洋学研究情報センターの項、18ページをご参照ください。)

C 所員の研究テーマ (2008年度)

汎アジア部門

いけちと ゆきお
池本 幸生

アジアにおける貧困と不平等

すが ゆたか
菅 豊

東アジアの自然と文化

た なか あきひこ
田中 明彦

東アジアをめぐる主要国間の国際政治

まつい たけし
松井 健

文化としての自然

おおかわ けんさく
大川 謙作

現代チベットの親族と政治

せきもと てるお
関本 照夫

現代アジアにおける伝統技能と社会

な わ かつお
名和 克郎

ネパールおよび南アジアの集団間関係

まつた やすひろ
松田 康博

中国と台湾の政治・外交研究, 中台関係論

東アジア部門 (第一)

くろだ あきのぶ
黒田 明伸

東アジア経済史

たかみ ざわ おさむ
高見澤 磨

現代中国の法と社会

まなべ ゆうこ
真鍋 祐子

朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム

こてら あつし
小寺 敦

中国古代家族史

ひらせ たかお
平勢 隆郎

中国古代領域国家の形成

やすとみ あゆむ
安富 歩

魂の脱植民地化

東アジア部門 (第二)

いたくら まさあき
板倉 聖哲

宋元文人の絵画表象

おかやま はじめ
丘山 新

中国における仏教経典の受容

はしもと ひでみ
橋本 秀美

中国経学史

おおき やすし
大木 康

中国明清時代の文学

おざき ふみあき
尾崎 文昭

魯迅・周作人の文学と思想

やまうち ふみたか
山内 文登

帝国日本のレコード産業と植民地朝鮮

南アジア部門

えいのお しんご
永ノ尾 信悟

古代インド社会と祭式

たかはし あきお
高橋 昭雄

東南アジアの農村社会

ばば のりひさ
馬場 紀寿

初期仏教・部派仏教の聖典形成史

かのう ひろよし
加納 啓良

東南アジアの現代経済史

なかざと なりあき
中里 成章

南アジア近現代史

ふるい りょうすけ
古井 龍介

南アジア古代・中世初期史

西アジア部門

かまだ しげる
鎌田 繁

イスラーム宗教思想の構造と展開

ながさわ えいじ
長澤 榮治

近代アラブ社会経済史

ますや ともこ
榎屋 友子

イスラーム地域における美術と社会

おかやま はじめ
丘山 新 (兼任)

東アジア文献資料の研究

ヒョン テソン
玄 大松

アジア資料の調査研究

まつだ くのにり
松田 訓典

インド大乘仏教思想研究

ウェッブ ジェイスン

古代東アジア比較文学研究

すずき ただし
鈴木 董

オスマン帝国の政治社会史的研究

はねだ まさし
羽田 正

世界史の再構築

もりもと かずお
森本 一夫

ムスリム諸社会の社会史的研究

おがわ ひろみつ
小川 裕充

東アジア造形資料の研究

ますや ともこ
榎屋 友子 (兼任)

西アジア造形資料の研究

東洋学研究情報センター

国際学術交流室

アジア・アフリカの貧困と開発の再検討

主任：池本幸生

- ※松井範博 ※後藤玲子 ※野上裕生 ○佐藤仁 ※山森亮
- ※國分圭介 ※片岡洋子 ※田口さつき ※佐藤宏
- ※坪井ひろみ ※吉野馨子 ※峯陽一

アジアの食文化と開発と地域

主任：池本幸生

- 玄大松 菅豊 ○渡辺知保 松井健 名和克郎 ○梅崎昌裕
- 羽田正 ※阿部健一 ※辻村英之

東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

主任：菅豊

- ※中村淳 ※南根祐 ※中野泰 ○岩本通弥 ※周星
- ※田村和彦 ※門田岳久 ※陳志勤

アジア染織業に見る地域アイデンティティと国際ネットワーク

主任：関本照夫

- ※伊藤ふさ美 ※中谷文美 ○山下晋司 ※塩田光喜
- ※小笠原小枝 池本幸生 ※林行夫 ※上田曜子 ※田口理恵
- 高橋昭雄 ※杉本星子 名和克郎 松井健

東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治

主任：田中明彦

- 山影進 ※浅野亮 ○古田元夫 ※伊豆見元 ※瀬島誠
- 谷垣真理子 ※今村弘子 ○原田至郎 ※保城広至 玄大松
- ※山本和也

南アジア北部における人類学的研究の再検討

主任：名和克郎

- ※上杉妙子 ※小牧幸代 ※佐藤齊華 ※田辺明生
- ※外川昌彦 ※藤倉達郎 ※マハラジャン, ケシャブ・ラル
- ※三尾稔 ※南真木人 ※森本泉 ※安野早己

サブシステム研究の可能性

主任：松井健

- 永ノ尾信悟 菅豊 ※飯田卓 ※太田至 ※大村敬一
- ※大山修一 ※落合雪野 ※河合香史 ※栗田博之
- ※栗本英世 ※窪田幸子 ※小長谷有紀 ※末原達郎
- ※杉島敬志 ※杉藤重信 ※須藤健一 ※曾我亨 ※高倉浩樹
- ※野林厚志 ※松田素二 ※家中茂

中国法研究における固有法史研究, 近代法史研究及び現代法研究の総合の試み

主任：高見澤磨

- ※ポール・チェン ○松原健太郎 ※陶安あんど ※中村正人
- ※川村康 ※西英昭 ※加藤雄三 ※鈴木秀光 ※高遠拓児
- ※赤城美恵子 ※鹿嶋瑛

中国出土文字史料とその歴史的背景

主任：平勢隆郎

- ※竹内康浩 ※呂静 ※原宗子 ※影山輝国 ※鶴間和幸
- ※工藤元男 ※谷豊信 ※飯尾秀幸 ※吉開将人 ※熊谷滋三
- ※近藤浩之 ※甘懐真 ※池田知正

共生と創発の歴史的ダイナミクス

主任：安富歩

- ※深尾葉子 ※本條晴一郎 ※佐藤哲 ※等々力政彦
- ※與那覇潤 ※富田啓一 ※井上正夫

仏教美術に関する資料収集と比較研究

主任：板倉聖哲

- ※内藤榮 ※伊東哲夫 ※稲本泰生 ※榎本涉 ※高橋範子
- ※高橋照彦 丘山新 ※井手誠之輔 ※安田治樹

中国禅宗語録の研究

主任：丘山新

- 橋本秀美 ※神塚淑子 ※小川隆 ※衣川賢次 ※石井修道
- 末木文美士 ※前川亨 ※喬志航 ※梅田雅子 ※土屋太祐
- ※倉本尚徳 ※泉経武

漢籍 版本と分類の研究

主任：丘山新

- 高見澤磨 黒田明伸 平勢隆郎 橋本秀美 尾崎文昭
- 小川裕充 板倉聖哲 大木康 ○川原秀城 ○小島毅
- 大西克也 ○村田雄二郎 ○黒住真 ※陳捷 ※梶浦晋
- ※黄仕忠 ※覃影

世紀交替期中国における文化転形

主任：尾崎文昭

- 大木康 丘山新 高見澤磨 ○大西克也 ※坂元ひろ子
- ※白水紀子 ※砂山幸雄 ○戸倉英美 ○村田雄二郎
- ※茂木敏夫 ○吉澤誠一郎

中国一九三〇年代の文学

主任：尾崎文昭

- 山内文登 ○伊藤徳也 ○刈間文俊 ○代田智明 ○藤井省三
- ※松岡俊裕

南アジア諸宗教の形成と展開

主任：永ノ尾信悟

- 鎌田繁 羽田正 ※片岡啓 ○斎藤明 ※高島淳 ※引田弘道
- ※森雅秀 ※田中公明 ※榊和良 ○種村隆元 ※杉木恒彦
- ※青木健 ※八尾史 ※堀内俊郎 ※鈴木隆泰 ※鈴木健太
- ※横地優子 ※佐藤直実 ※西沢史仁 ※相場徹 ※松本峰哲

東南アジア近現代史像の再検討

主任：加納啓良

※浅見靖仁 ※小泉順子 ※白石昌也 ○末廣昭 高橋昭雄
※土佐弘之 ○中西徹 ○藤原帰一 ○古田元夫 ※高地薫
※伊藤正子 ※岩月純一 ※宮脇聡史 ※水野明日香
※藪下ネーナパー

特産品とその消費の変容から見た現代アジア経済史

主任：加納啓良

池本幸生 高橋昭雄 ※久米高史 ※水野明日香 ※山本博史
※宮田敏之 ※三本木一夫 ※小座野八光 ※大澤篤

ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任：高橋昭雄

※根本敬 ※工藤年博 ※谷祐可子

南アジアのヒストリオグラフィ

主任：中里成章

※栗屋利江 ※大石高志 ※押川文子 ※神田さやこ
※木村真希子 ○志賀美和子 ※竹中千春 ※野村親義
古井龍介 ○水島司 ※柳澤悠 ※脇村孝平

イスラーム思想の文献学的研究

主任：鎌田繁

※小林春夫 ○杉田英明 ○竹下政孝 ※東長靖 ※中田考
※野元晋 ※藤井守男 ※菊地達也 ※吉田京子 ○高橋英海
※仁子寿晴

アジア都市比較の課題と方法

主任：鈴木董

※陣内秀信 松井健 ※妹尾達彦 大木康 ※清水展 羽田正
※坂本勉 ※林佳世子 ○大田省一 ※黒木英充 ○本村凌二
※小泉龍人

比較イスラーム制度史の研究

主任：鈴木董

※三浦徹 ※私市正年 ※林佳世子 羽田正

イスラーム史料の総合的研究

主任：鈴木董

※坂本勉 ※八尾師誠 羽田正 ※林佳世子 ※黒木英充
※堀井優 ※加藤博 ※私市正年 ※三沢伸生 ※秋葉淳

西アジア文献資料学の課題と方法

主任：鈴木董

長澤榮治 羽田正 鎌田繁 永ノ尾信悟

中東の社会変容と思想運動

主任：長澤榮治

※池田美佐子 ※鈴木恵美 ※臼杵陽 ※岡野内正 ※加藤博
※栗田禎子 ※福田安志 ※松本弘

都市社会と宗教施設

主任：羽田正

○藤井恵介 ※私市正年 ○小松久男 ※林佳世子 ※三浦徹
※深見奈緒子 ※山中由里子 森本一夫 榎屋友子
○大田省一

比較歴史学の課題と方法

主任：羽田正

※伊藤幸司 ※藤田明良 ○村井章介 ※森平雅彦 ※岡元司
※高津孝 ※中島楽章 ※四日市康博 ○深沢克己

イスラーム美術の諸相

主任：榎屋友子

※深見奈緒子 ※真道洋子 ※小林一枝 ※阿部克彦
※山下王世

ペルシア語文化圏に関する文献学的研究

主任：森本一夫

※近藤信彰 ※菅原睦 ※前田弘毅 ※真下裕之 ※山岸智子
※山口昭彦

現存する中国絵画の包括的再検討

主任：小川裕充

板倉聖哲 ※嶋田英誠 ※湊信幸 ※宮崎法子 ※藤田伸也
※救仁郷秀明 ※井手誠之輔 ※西上実 ※伊藤大輔
※増記隆介 ※竹浪遠

アジア美術とアイデンティティー

主任：小川裕充

板倉聖哲 ※西上実 ※井手誠之輔 ※朴亨國 ※後小路雅弘
※浅井和春 ○大田省一 ※秋山光文 羽田正 榎屋友子
※田中秀隆

個別課題研究協力者一覧

※包慕萍「18～20世紀山西商人移民による清朝藩部（満州、蒙
古、新疆）の商業都市の形成に関する研究」
※岸本美緒「清代民間文書の研究」
※熊遠報「伝統中国の都市の構造とその展開」

E 外部資金による研究 (2006, 2007 年度)

文部科学省・日本学術振興会科学研究費による 研究調査

松井 健

「自然資源の認知と加工」
特定領域研究 2006

黒田明伸

「中近世東アジア貨幣史の特殊性・共時性とその貨幣論的含意」
特定領域研究 2006 2007

羽田 正

「海域比較研究——インド洋海域世界と地中海海域世界における地域間交流の諸相——」
特定領域研究 2006 2007

小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——全アジアから全世界へ——」
基盤研究(S) 2007

加納啓良

「砂糖・コーヒー・米に見る 20 世紀の大衆消費展開とアジア輸出経済の変容」
基盤研究(A) 2006

大木 康

「アジア古籍電子図書館の構築の研究」
基盤研究(A) 2006 2007

小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——東南アジアから全アジアへ——」
基盤研究(A) 2006

羽田 正

「17～18 世紀アジア諸地域の港町における異文化交流の諸相の比較研究」
基盤研究(A) 2006 2007

鈴木 董

「中東コア地域の政治社会に関する基本資料データベース構築に向けての基礎研究」
基盤研究(B) 2006 2007

長澤榮治

「アラブ世界の活字文化とメディア革命」
基盤研究(B) 2006 2007

安富 歩

「魂の脱植民地化——日本とその周辺諸国のポストコロニアル状況を解消するための歴史学——」
基盤研究(B) 2007

高橋昭雄

「契約文書からみた英領植民期ビルマ（ミャンマー）農村経済の研究」
基盤研究(B) 2007

菅 豊

「日本・中国の伝統地域社会における社会関係資本の比較研究」
基盤研究(C) 2006 2007

平勢隆郎

「戦前の学際的アジア研究調査により記録された画像資料に関する系統的研究」
基盤研究(C) 2006

中里成章

「独立期以降におけるインド農業発展の制度的要因——西ベンガル州の事例——」
基盤研究(C) 2006 2007

高橋昭雄

「英領植民地下のビルマ（ミャンマー）における土地・借金文書の研究」
萌芽研究 2006

小寺 敦

「『周代宗法制』の成立に関する研究」
若手研究(B) 2007

大川謙作

「チベット村落社会における親族・民族・個人関係の人類学的研究」
若手研究（スタートアップ） 2006 2007

保城広至

「戦後日本のアジア地域主義外交 1952～1966」
若手研究（スタートアップ） 2006

玄 大松

「戦後日韓における「独島・竹島問題」報道の比較研究」
若手研究（スタートアップ） 2006 2007

田中明彦

「データベース 20 世紀・21 世紀年表」
研究成果公開促進費 2006 2007

大木 康

「東洋文化研究所所蔵漢籍目録データベース」
研究成果公開促進費 2006

平勢隆郎

「東文研蔵アジア写真資料集成データベース」
研究成果公開促進費 2006

その他の研究助成・奨学金**黒田明伸**

トヨタ財団 2005 年度研究助成金 2006

森本一夫

平成 18 年度稲盛財団研究助成金 2006

馬場紀寿

第 44 回（平成 18 年度）三島海雲記念財団学術奨励金
2006

玄 大松

韓国海洋水産開発院助成金 2006 2007

加納啓良

「Indonesian Exports, Peasant Agriculture and the
World Economy, 1850-2000: Economic Structures in
a Southeast Asian State」
研究成果公開促進費 2006 2007

保城広至

「アジア地域主義の再検討（その歴史、その理論、その
可能性）」
大学教育の国際化推進プログラム（海外先進研究実践支援）
2007

玄 大松

サントリー文化財団助成金 2007

馬場紀寿

財団法人 JFE21 世紀財団アジア歴史研究助成金
2007

馬場紀寿

三菱財団人文科学研究助成金 2007

安富 歩

大日本印刷株式会社との共同研究 2007

- 松本忠雄氏旧蔵書：日中関係など 3,000 冊
- 雙紅堂文庫：長澤規矩也氏旧蔵書 明清戯曲小説類漢籍 3,150 冊
- 清野文庫：清野謙次氏旧蔵書 人類学・考古学関係洋書 750 冊
- 矢吹慶輝氏旧蔵書：マニ教文献，仏教遺跡など洋書 305 点
- 下中文庫：下中弥三郎氏寄贈 第二次大戦後出版された中国書 4,500 冊，洋書 130 冊，中国雑誌 10 冊
- 東京銀行調査部旧蔵資料：和漢書・資料類 18,000 点
- 仁井田文庫：仁井田陸氏旧蔵書 漢籍・中国書 5,000 冊，和書 2,200 冊，洋書 120 冊，清代公・私文書類 900 余点，碑文拓本 50 基
- 我妻文庫：我妻栄氏旧蔵書 アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
- 倉石文庫：倉石武四郎氏旧蔵書 漢籍 4,433 点，中国書 2,300 点，和書 3,300 点，その他 676 点
- 江上文庫：江上波夫氏旧蔵書 歴史学・民族学・考古学関係 洋書 2,550 点
- Daiber Collection I, II：Hans Daiber 氏収集 12～20 世紀初頭にいたるイスラーム宗教・思想・歴史関係 アラビア語写本 490 点
- 文淵閣四庫全書影印本：1,501 冊
- オランダ植民地省公文書（1850～1921）索引およびジャワ官報（1928～1939）：（マイクロフィッシュ）
- 乾隆版大蔵経：清代に刊行された木版大蔵経：1,657 部
- Ouseley Collection：Gore Ouseley 卿旧蔵書 17～19 世紀西欧人のインド・中近東旅行記，ペルシア文学 60 点 106 冊
- Mütefferika Collection：オスマン朝時代の初期刊本 17 点
- 南アジア伝道教団資料集成：18～20 世紀の教団の年報，議事録，報告書など（マイクロフィッシュ）
- Indonesian Monographs 1945～1973：独立後インドネシア社会科学関係（マイクロフィッシュ）
- 今堀文庫：今堀誠二氏旧蔵書 近現代中国社会史・華僑関係資料漢籍 300 点，中国書 2,000 点，和洋書 260 点，文書 500 点
- 東アジア宗族社会史関係資料 朝鮮族譜集成 494 点 中国華南宗族社会史資料，南洋華僑・華人関係資料 2,263 点
- 中国西北文献叢書：中国西北地方の歴史・文学等基本文献
- オスマン語・トルコ語年鑑・定期刊行物コレクション
- 西アジア関連写本集成：ミンガナ・コレクション，ロンドン大学東洋アフリカ研究所など所蔵のアラビア語写本（マイクロフィッシュ）
- 中国第一歴史档案馆清代档案資料：清朝公文書（マイクロフィルム）
- 夕嵐草堂文庫：前野直彬氏旧蔵書 明清小説類 漢籍 500 点 4,400 冊
- 伊藤文庫：伊藤義教氏旧蔵書 古代・中世イラン学関係 和・洋書 849 冊
- 安田文庫旧蔵『論語』コレクション：安田弘氏寄贈 正平版を含む論語 9 点を柱とする漢籍 11 点
- 上村文庫：上村勝彦氏旧蔵書 サンスクリット詩学・宗教・哲学 サンスクリット語 658 点
- タイ語文献コレクション：文献 2,185 点と図書 7 点をあわせた 2,192 点のタイ語文献
- 荒木文庫：荒木茂氏収集波斯関係洋書 938 点 1,112 冊
- 両紅軒文庫：伊藤漱平氏旧蔵書 漢籍・中国書・和書・洋書 現在 480 点（継続受入中）

4 図書の利用と保存

(1) 図書の利用状況

開架スペースには研究所刊行物、所員の著作、参考書、新聞を配架し、他の蔵書はすべて書庫に配架しています。閲覧希望の図書資料はカウンターで出納します。蔵書は原則として貸出していません。

2005・2006年度開室日数・閲覧者数は次の通りです。

	2005年度	2006年度*
開室日(日)	220	116
学内閲覧者(人)	3,134	183
学外閲覧者(人)	2,294	210

*建物耐震補強工事のため閲覧業務の制限・中止を余儀なくされ、2007年1月から閉室しております。再開予定は2008年秋以降です。

(2) 貴重図書の保存・複製・閲覧

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものです。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任があります。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵しています(2008年3月現在)。古い書籍には既に破損していたり、劣化が進んでいるものもあります。

現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めています。ただし、この作業には多大の時間と費用とを要します。利用者の広い支援と協力をお願いします。

こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文映像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文を遠隔地からも利用していただけるようになりました(20ページ参照)。2007年度には「雙紅堂文庫全文映像資料庫」も追加しました。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

来所された閲覧者には複製本を閲覧していただきますが、特に必要のある専門家には所定の手続きを経て原本を閲覧していただくことができます。

なお本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても進められています。



第3回アジア古籍保全講演会
(2007年11月20日)

図書の利用について（耐震補強工事後，移転先から蔵書を戻すのが2008年秋以降になる見込みです。再開時期については，当研究所図書室ホームページ <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/>をご覧ください）

閲覧 一般図書・貴重書

どなたでもご利用いただけますが，大学等研究機関に所属されていない方は事前に所蔵図書資料閲覧申請を出していただきます。

特別貴重書

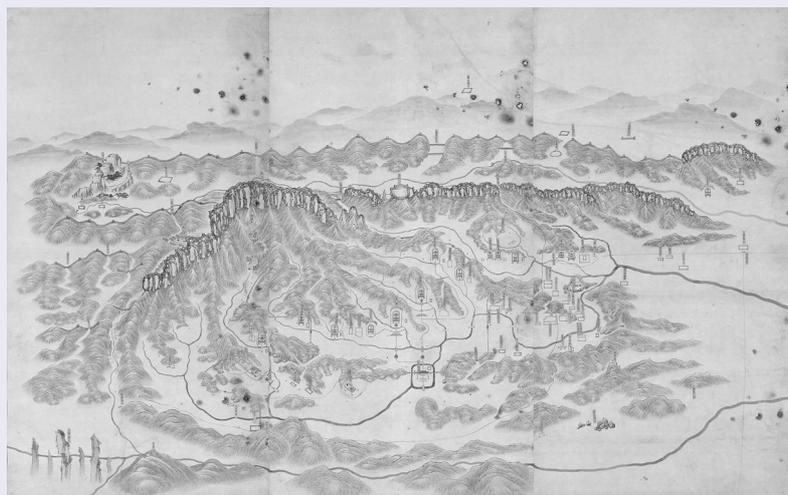
複製がある場合には，複製については一般図書として閲覧できます。
研究・教育上原本の閲覧が特に必要な場合には，特別貴重書閲覧申請をお出しください。審査のうえ，ご利用いただきます。
保存状態などにより原本の閲覧ができない場合があります。

複写・掲載 複写申請

複写申請のうえ複写することができます。
線装本貴重書・特別貴重書等は写真撮影により複製することができます。ネガフィルムは本研究所で保存します。
なお著作物の二分の一以上の複写は全頁複写となり，個人には認められません。

出版掲載許可申請・放映許可申請

複写した画像を出版物に掲載したり，ウェブサイト上で公開したりする場合には，予め出版掲載許可申請をお願いします。テレビ等で放映する場合も同様です。出版物の場合には1部，テレビ番組等の場合には録画記録媒体1部のご寄贈をお願いします。なお，ウェブサイト上での公開の場合には，URLおよび公開した部分の画像をプリントアウトしたもの1部のご提供をお願いします。



清西陵全図
中国河北省易県にある清朝歴代皇帝陵墓の地勢図，清末。

東洋学研究情報センター

センターの 目的・沿革

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設されました。現在のセンターは、旧センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、新設の造形資料分野と従来からの文献資料両分野にわたる「アジア資料学」の確立を目指しています。

研究活動

アジア研究の造形・文献両分野の資料の収集・管理、及びそれらの資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施しています。以上に加えて、アジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを2003年度から開始しました。

センター長 **小川 裕充**

造形資料学分野

美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を研究対象としています。

教授 **小川 裕充**

教授 **柘屋 友子** (兼任)

助教 **保城 広至** (08年3月まで)

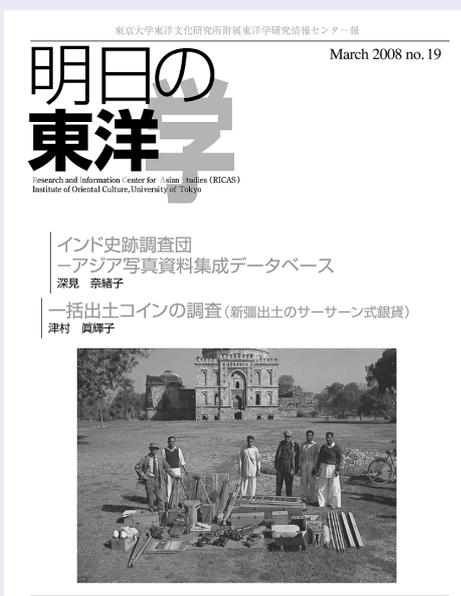
比較文献資料学分野

アジア諸言語で書かれた書籍・新聞雑誌・文書・碑文等の文字資料を研究対象としています。

教授 **丘山 新** (兼任)

准教授 **玄 大松**

助教 **松田 訓典** (08年4月から)



東洋学研究情報センター報『明日の東洋学』第19号 2008年3月

センターの主要な活動

センターは、アジア学関連資料を収集・整理するデータベースプロジェクトに加えて、アジア研究に関する情報を組織化し発信するプロジェクトを進めています。

アジア研究 情報 Gateway

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページです。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報・研究会開催情報のほか、「Asian Studies Watching」のコーナーには各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指しています。



アジア研究情報ゲートウェイホームページ（英文版）



エジプト カイロの書店情報

アジア・ バロメーター

<https://www.asiabarometer.org/en/index/>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクトです。アジア全域で、毎年世論調査を実施し、実証的なデータを累積するとともに、国内外の研究者と共同で分析・討論を行います。結果はウェブサイト随時公開されます。

漢籍整理長期 研修

全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施しています。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、中国書史、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されています。1980年の開始以来、約75機関、200名以上が受講しました。

東アジア研究 の促進

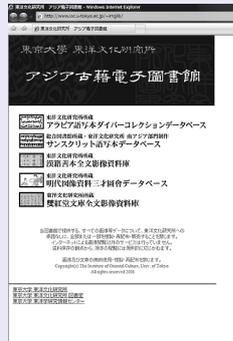
2004年度に開始された東アジア研究の促進事業は、2003年のASEAN+3ミーティングで、日本が提唱し、承認された事業です。2005年1月にASEAN+3の13カ国（日本を含む）とAUN: ASEAN University Networkの研究者を招き、2日間のミーティングを行い、NEAS: Network of East Asian Studiesという組織を立ち上げました。当センターは、第4回会合までその幹事機関を務め、2007年度は2008年3月10～12日にタイ国で、第4回東アジア研究促進ネットワーク会合を開催しました。（40ページの写真を参照。）

データベースプロジェクト

アジア古籍電子図書館

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/%7Eimglib/>

本研究は、文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため、世界に先駆けて資料をネットワーク上で試験的に公開することを決断しました。国内外の諸研究機関・図書館が、同様の試みを積極的にすすめ、将来的には、仮想空間上に国際的に連携した善本漢籍影像資料庫が構築されることを願っています。(16 ページ参照。)



アジア古籍電子図書館データベース



目録のページ

インド史跡調査団データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が行ったデリーを中心としたインドのイスラム建築の写真、図面、拓本などの資料をデジタル化し、都市別、建物別に公開しています。



インド史跡調査団

データベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>

戦後日本の政治や国際関係についてのデータベースです。重要文献、演説、出来事、略語などを調べることができます。



データベース「世界と日本」



20世紀・21世紀年表検索ページ

ダイバーコレクションデータベース

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html

イスラーム史料写本を電子化した全内容をオリジナルカタログと併せて利用できます。

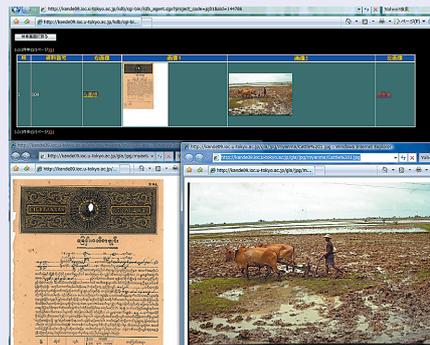


ダイバーコレクションデータベース

植民地期ビルマの土地関係資料データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hashi/index.html>

英領ビルマで作成された契約文書（7,000 枚以上）の一部の電子画像を現在の農村風景と連動させて公開しています。



植民地期ビルマの土地関係資料データベース

その他のプロジェクト

- 貴重漢籍の保存とデジタル化
- アジア美術画像アーカイブ
- 中国美術関係資料の収集とデジタル化
- イスラーム美術作品画像アーカイブ
- 東洋文化研究所所蔵アジア写真資料データベース
- Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト (eDic)
- 中世ペルシア語辞書作成
- アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト
- 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化
- ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料
- インドネシアの更紗（バティック）図像データベース作成
- 江戸・明・古代プロジェクト



クチャ（西域北道）キジル石窟菩薩像頭部

菩薩の宝冠部分から胸上部までで、周囲の損傷は激しいが幸い顔貌を中心に表面が残っている。キジル壁画第二期の特徴を有している。



宋版『史記』

中国書の印刷は宋代に本格化した。現存する数少ない宋版の一。夏本紀の部分。



神秘の鍵

ファフルッディーン・ラーズィー（1209年没）のクルアーン注釈書『神秘の鍵』の15世紀のアラビア語写本。



孫鼎買冢筋

中国（呉）時代
孫鼎が墓（冢墓）を作るため、一丘を購入したことを記す墓券。



馬像

中国唐時代（8世紀）
トルファン出土。大谷探検隊将来品。

アジア高地のフィールド調査



チベットの土地神祭祀

チベット暦正月（ロサー）の3日にチベット文化圏全域で広く行われる土地神祭祀。四川省カンゼ・チベット族自治州B県S村にて。



チベットの宗教舞踊 チャム

四川省カンゼ・チベット族自治州B県の某寺にて。



チベット農業祭の競馬

チベットの農業祭（オンゴル）で行われる競馬。チベット自治区チュシュル県TS村にて。



極西部ネパールの馬の祭 ラン・カルチェ

ヒャンス地方ティンカル村にて。



ネパールの政治集会

カトマンドゥで開かれた主要議会政党による反国王集会 (2004年3月)



ネパールの制憲議会選挙

候補者当選を祝うネパール共産党（マオイスト） (2008年4月、カトマンドゥ)

東洋文化研究所刊行物

本研究所では、『東洋文化研究所研究報告』をはじめさまざまな形態の書籍、および雑誌『東洋文化研究所紀要』・『東洋文化』を刊行し、アジアに関するさまざまな学問の最新の研究成果と情報を発信しています。

1. 研究報告

『東洋文化研究所紀要別冊』

本研究所のスタッフの研究成果を収めたモノグラフ・シリーズです。通算の刊行数は62冊に達しています。最新刊のものは以下の通りです。

- 小寺敦『先秦家族関係史料の新研究』（2008年3月）

その他

本研究所では、アジア研究のレファレンス叢書としての『東洋文化研究所叢刊』、さらに調査報告、蔵書目録、記念論集等、さまざまな出版物を随時刊行しています。2006・2007年度の刊行は以下の通りです。

- 羽田正（編）『ユーラシアにおける文化の交流と転変』
（2007年3月 東洋文化研究所叢刊 21）
- 『アジア学の明日にむけて』（2008年3月）
- 『アジア古籍保全講演会記録集』第1回～第3回
（2008年3月）
- 『BI』（超域連携研究プログラム「アジアの『美』の構築」
Annual Report, Vol. 1 2007年3月, Vol. 2 2008年2月）



2. 雑誌

『東洋文化研究所紀要』

本研究所の紀要として、本研究所スタッフおよび研究担当者、研究協力者等による最新の学術的成果に基づく論文を掲載しています。年2回刊行。2006・2007年度の刊行は以下の通りです。（掲載内容については、41～42ページを参照。）

- 第150冊（2007年3月） 第151冊（2007年3月）
第152冊（2007年12月） 第153冊（2008年3月）

『東洋文化』

各号に特集を設け、本研究所のスタッフを中心としたさまざまな共同研究の成果を発信しています。年1回刊行。2006・2007年度の刊行は以下の通りです。（42ページを参照。）

- 第87号 特集 イスラーム思想の諸相（2007年3月）
- 第88号 特集 米・砂糖・コーヒーから見た現代アジア経済史（2008年3月）

International Journal of Asian Studies (IJAS)

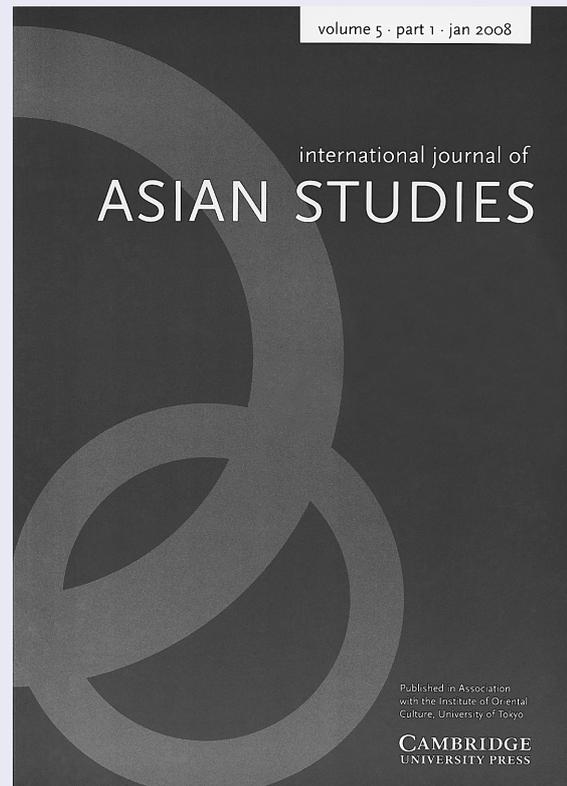
東洋文化研究所は、これまでのアジア研究のセンターとしての蓄積を踏まえ、*International Journal of Asian Studies* (IJAS) を創刊しました。

IJAS はアジアに関する主に人文・社会科学の研究成果を公刊する、国際的かつ学際的な英語による学術誌です。全世界から原稿を募集し、ケンブリッジ大学出版会より年2回刊行されます。

第1巻第1号は2004年1月に出版され、第5巻第1号(2008年1月)まで順調に刊行されています。(掲載内容については、42~43ページを参照。)

IJAS はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視しています。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たしていきます。

投稿規定等詳細につきましては、本研究所ホームページをご覧ください。



東洋学研究情報センター刊行物

センターは、『東洋学研究情報センター叢刊』およびニュースレター『明日の東洋学』を刊行しています。

『東洋学研究 情報センター 叢刊』

アジア研究のレファレンス叢書として定評のあった『東洋学文献センター叢刊』を引き継ぐ文献資料・造形資料目録シリーズです。国内外の大学図書館や東洋学研究室、研究機関等に寄贈しています。2006・2007年度に刊行されたのは以下の3冊です。

第7輯
東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目録 2007

第8輯
伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(1) 2007

第9輯
Old Maps of Tuva 1 2008

ニュースレター 『明日の東洋 学』

センター事業の紹介、および国内外の研究者によるエッセイを掲載し、アジア学をめぐる最先端の話題を読みやすい形で提供しています。年2冊刊行で、2006年度にはNo. 16とNo. 17、2007年度にはNo. 18とNo. 19を刊行しました。バックナンバーはセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

公開講座・研究会等

本研究所では、多様な研究成果をさまざまな形で社会に還元するため、多彩な講座、研究会、セミナー、シンポジウムを公開で開催しています。最新の情報については、本研究所のホームページをご覧ください。

1. 公開講座

「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、研究所が長年蓄えてきた知的ストックをもとにして、研究所スタッフがわかりやすく解説する公開講座を毎年開催しています。2007年度は第7回「アジアを知れば世界が見える—アジアの界」の統一テーマで2007年11月10日実施しました。講師・講演タイトルは以下の通りです。

- 高見澤磨「中国における法の境界」
 中里成章「心の境界、国の境界—南アジアの宗教対立と国境線」
 玄 大松「朝鮮半島と日本列島の境界—「血・地・知」の境界は何処か？」

これまでの公開講座統一テーマ一覧

- 第1回 アジアの藝 (2001年)
- 第2回 アジアの心 (2002年)
- 第3回 アジアの交 (2003年)
- 第4回 アジアの絆 (2004年)
- 第5回 アジアの富 (2005年)
- 第6回 アジアの暦 (2006年)

東京大学創立130周年記念事業
 第7回 東京大学東洋文化研究所 公開講座
 アジアを知れば世界が見える

2007年 11/10 Sat.
 11:00-13:00
 中国における法の境界
 講師 高見澤磨
 心の境界、国の境界—南アジアの宗教対立と国境線
 講師 中里成章
 朝鮮半島と日本列島の境界—「血・地・知」の境界は何処か?
 講師 玄 大松

東京大学・工学部8号館
 第一階82教室 (本郷キャンパス)
 (東洋館文芸学館7-3-1)

●申込期間 2007年10月15日(日)まで
 ●申込方法 申し込み用紙をEメールにて、住所、氏名、電話番号を記入の上、下記までお申し込みください。(03-5541-0109) (申込料なし)
 ●申込先 東京大学東洋文化研究所 事務室
 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 TEL: 03-5541-0336
 東京大学東洋文化研究所 研究開発部 (E-Mail: kcc@cc.u-tokyo.ac.jp)
 東京大学東洋文化研究所 学務課 (E-Mail: u-tokyo@cc.u-tokyo.ac.jp)
 東京大学東洋文化研究所 広報課 (E-Mail: kcc@cc.u-tokyo.ac.jp)
 http://www.u-tokyo.ac.jp/kyokai

2. 定例研究会

本研究所の研究スタッフが、それぞれの研究成果を公開で発表します。年6回程度開催されます。過去2年間の発表タイトルは以下の通りです。

2006年度

- 玄 大松 『『独島・竹島問題』の実像と虚像』
 小寺 敦 「春秋三伝婚姻記事の比較研究試論」
 真鍋 祐子 「韓国人と旅した中国—グローバリズムとナショナリズムのはざままで」
 長澤 榮治 「インターナショナリストとしてナショナリズムの時代を生きる—二人のユダヤ教徒エジプト人共産主義者とパレスチナ問題」
 菅 豊 『『歴史』をつくる人びと—異質性社会のレジティマシー』
 名和 克郎 「帰属カテゴリー、ワード・ポリティクス、リアリティ—現代ネパールにおける社会生活の民族誌の為のメモランダム」

2007年度

- 保城 広至 「戦後日本のアジア地域主義外交とその蹉跌—「東アジア共同体」を語る前に」
 安富 歩 「世の中はなぜなんともっているのか?—東洋思想の可能性—」
 橋本 秀美 「中国古典文献学の構造模式」
 大木 康 「『影梅庵憶語』と『紅樓夢』」
 黒田 明伸 「流体としての貨幣たちの歴史」
 永ノ尾信悟 「ヴェーダ文献、ポスト・ヴェーダ文献における雨乞い儀礼：その外観」

3. 東文研 シンポジウム, 東文研 セミナー

本研究所では、最先端の研究成果を研究者間で広く共有し社会に向けて発信すべく、一般公開の「東文研シンポジウム」「東文研セミナー」を随時開催しています。2006年度には3回の東文研シンポジウム、28回の東文研セミナーが、2007年度には2回の東文研シンポジウム、18回の東文研セミナーが開催されました。

シンポジウム、セミナーの内容は、本研究所のプログラムや班研究の成果発表から、中長期に海外で研究したスタッフによる帰朝報告、書評会に至るまでバラエティに富んでいます。

次に2006年、2007年度の東文研シンポジウムの全タイトルを挙げます。

- 「Historical and religious perspectives on early Twelver Shi'ism」
- 「東アジアの「美」の人類学」
- 「Sugar, Coffee, Tea and Rice in Economic History of Modern Asia」
- 「日韓領土問題をどう捉えるか」
- 「東アジアの録音文化―音と美をめぐる―」

この他、カルカッタ大学との共催セミナー「南アジアにおける人間の安全保障」、成均館大学東アジア学院との共同セミナー「語彙から考える―東アジアの近代―」をはじめ、国内外で多様なセミナー、講演会、ワークショップ等が開催されました。

4. 特別公開 セミナー

2007年度は試験的に以下の特別公開セミナーを実施しました。

- 小川 裕充「中国山水画の透視遠近法―郭熙のそれを中心に―」（2007年4月14日）
 丘山 新「個人苦から世界苦へ―大乘仏教の誕生―」（2007年4月21日）

5. PC フォーラム

東京大学プレジデント・カウンシル第3回東京会議の関連事業として、総長室との共同企画・運営により、東京大学プレジデント・カウンシル・フォーラム（PCフォーラム）2007「アジアから問う共生の哲学」を2007年11月9日に開催しました。

講演者・演題

- 丘山 新「古典から問う共生の智慧」
 安富 歩「魂の脱植民地化―孔子とガンディーの智慧と勇気―」
 モデレーター 長崎暢子（東京大学名誉教授）
 パネリスト Un-Chan Chung（韓国・ソウル大学前総長）
 Bill Emmott（英国・「エコノミスト」誌前編集長）

国際交流

国際交流は、アジア研究のセンターとしての研究所の活動の中核をなすものであり、所員の外国出張はもとより、各国の大学との学術交流協定を結び、多くの外国人外研究者を受け入れるなど、さまざまな形での交流を行ってきました。

1. 国際学術交流室

国際学術交流室は、本研究所の国際学術交流を推進するため2001年に新たに設置されました。本研究所が編集の中核を担い、ケンブリッジ大学出版会より2004年に刊行が開始された英文の国際学術雑誌 *International Journal of Asian Studies* の編集業務をはじめとして、本研究所の国際学術交流の中核としての役割を担っています。

2. 交流協定

本研究所は、東京大学と中国・復旦大学（1991-）およびシンガポール国立大学（2006-）との学術交流協定の担当部局として、両大学との交流の中核を担っています。

また本研究所は、香港大学アジア研究センター（1995-）、シンガポール国立大学人文・社会科学部（1997-）、フランス高等研究院（2005-）、ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部（2005-）、カルカッタ大学歴史学部（2006-）、ベトナム・タイグエン大学経済経営学部（2006-）との間で部局間交流協定を結び、アジア各国の研究者との交流を積極的に推進してきました。

3. 外国出張

研究所スタッフの外国出張の件数は、2005年度121件、2006年度126件にのぼりました。国別、期間別の数字（延べ人数）は以下の通りです。

国名	2005年度		2006年度		国名	2005年度		2006年度	
	1か月以上	1か月未満	1か月以上	1か月未満		1か月以上	1か月未満	1か月以上	1か月未満
中国		27	7	16	イラン				1
台湾		10	6	10	ヨルダン				1
韓国		3		16	エジプト		1		1
インドネシア		8	1	4	トルコ		3		
タイ	1	5	1	3	バハレーン		1		
シンガポール		5	2	2	イギリス	1	8	4	6
ベトナム		3	1	3	イタリア		3		1
ラオス		1		1	フランス	1	3	1	5
ミャンマー	1		1		ドイツ				1
マレーシア		4	1	1	オランダ		1		1
ブルネイ		3		1	フィンランド				1
インド	1	3		8	スウェーデン				1
ネパール		1		1	チェコ				1
ウズベキスタン		3			ハンガリー				1
キルギス		1			アメリカ合衆国	1	11		12
カザフスタン		1			オーストラリア	1	4		2
タジキスタン		1			計	7	114	25	101

4. 海外との
図書
の寄贈・交換

海外の研究機関との間で、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』、『明日の東洋学』等の本研究所およびセンター発行の図書の寄贈並びに交換を行っています。寄贈・交換先は 33 か国、383 機関に及んでいます。なお、国内については 261 機関と寄贈・交換を行っています。

5. 外国人研
究者等の
受け入れ

Ian Astley

(University of Edinburgh, Senior Lecturer and Convenor of Japanese, 2005/1/26-2006/12/31)

Xavier Paules

(Institut d'Asie Orientale, Ph. D. Student, 2005/10/24-2007/9/4)

賀 照田

(中国社会科学院・文学研究所副研究員, 2005/9/22-2006/7/21)

姚 勝旬

(2005/4/11-2007/4/10)

李 春光

(中国社会科学院日本研究所所長室副主任, 2005/4/21-2007/3/31)

Cesar de Prado

(United Nations University, Comparative Regional Integration Studies, Research Fellow, 2005/5/16-2007/8/31)

Fei-ling Wang

(Georgia Institute of Technology, Professor, 2005/5/31-2006/8/31)

Yongwook Ryu

(Harvard University, Ph. D. Student, 2005/9/1-2006/8/31)

劉 東勝

(北京大学国際関係学院博士課程, 2005/9/1-2006/3/31)

李 元徳

(国民大学社会科学大学副教授, 2005/10/1-2006/9/30)

古 怡青

(国立台湾大学博士候補生, 2006/6/28-2006/9/28)

呂 紹理

(国立政治大学副教授, 2006/1/10-2006/2/4)

李 少軍

(武漢大学歴史系教授, 2006/8/1-2007/1/31)

臧 清

(北京語言大学漢語学院漢語言文化系助教, 2006/3/10-2006/7/21)

陳 志勤

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2006/4/1-2008/3/31)

H. S. Prabhakar

(Jawaharlal Nehru University, Centre for East Asian Studies, Chairperson, 2006/3/13-2006/6/12)

Richard von Glahn

(University of California, Los Angeles, Professor, 2006/4/20-2006/8/21)

孫 基燮

(ソウル大学国際大学院研究教授, 2006/7/20-2008/3/31)

李 錫熙

(Department of East Asian Languages & Civilizations at Harvard University, Ph. D. Candidate, 2006/8/11-2007/6/30)

Hecht Spencer

(University of Hawaii, Lecturer, 2006/9/1-2007/8/31)

吳 静芳

(成功大学歴史学研究所博士班, 2007/9/1-2008/2/28)

Robert Chard

(Faculty of Oriental Studies, University of Oxford, University Lecturer, 2007/4/10-2009/4/9)

烏日図那蘇図

(千葉大学大学院社会文化科学研究科, 2007/4/1-2008/2/22)

Nguyen Van Minh

(Vietnamese Academy of Social Sciences, Researcher, 2007/10/1-2008/9/30)

鍋島 亜朱華

(中央研究院訪問研究者, 2007/8/1-2008/3/31)

中谷 一

(マギル大学東アジア学科美術史・コミュニケーション学科, Assistant Professor, 2007/9/1-2008/8/31)

黄 仕忠

(中山大学中国古文献研究所, 教授・所長, 2007/10/1-2007/11/15)

謝 明良

(台湾大学芸術史研究所, 教授・所長, 2007/10/1-2008/1/31)

施 静菲

(国立故宫博物院, 2008/1/20-2008/7/5)

池 麗梅

(中国華北省仏教協会震旦仏教美術研究所研究員, 2007/10/1-2008/3/31)

蔣 真

(西北大学中東研究所講師, 2007/11/20-2007/11/26)

馮 芳

(中国現代国際関係研究院博士課程, 2008/1/20-2008/7/20)

秦 永章

(中国社会科学院民族学与人類学研究所研究員, 2008/3/1-2009/2/28)

教育・国内交流

1. 大学院教育

本研究所は以下の研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担しています。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化研究, 南アジア社会文化研究, 西アジア社会文化研究
法学政治学	基礎法学	学際法学, 学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	アジア経済史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化
	国際社会科学	比較現代政治
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学	環境学研究系	
	国際協力学専攻	地域間連関・交流

学際情報学府

大学院における授業担当教員および指導学生数は以下の通りです。

研究科	2006				2007			
	授業担当		指導学生		授業担当		指導学生	
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
法学政治学	2	3	4	4	2	2	4	2
人文社会系	14	16	17	3	10	14	20	2
農学生命科学	1		1		1	1	1	2
経済学	3	3	2		1		2	
新領域	1	2	5		1	3	1	
総合文化	8	7	15		9	7	17	1
情報学環	2	1	3		3	3	3	
(ASNET)	7				3			

2. 学部担当

本研究所では、多くの教員が様々な学部で3、4年生を対象とした講義を行っています。また、学部1、2年生を対象とした「全学自由ゼミナール」も担当しています。

学部	2006	2007
法	1	1
経	1	1
文	5	6
教養	4	5
農	1	1
工	1	1

3. 日本学術振興会特別研究員(PD)の受入れ

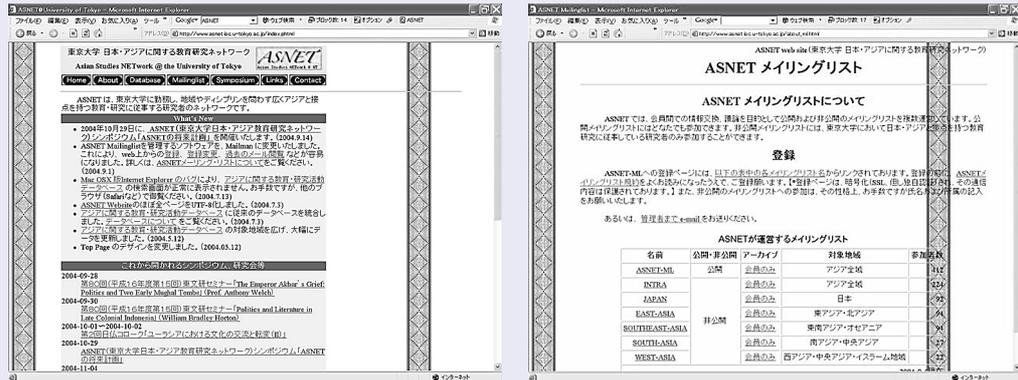
ASNET 推進室への支援

氏名	年度	研究課題
木村真希子	2004-2006	先住民族と移民の権利衝突と平和的解決への模索 —インド・アッサム州を事例に—
古橋 紀宏	2004-2006	魏晋南北朝時代における礼学の研究
渡辺 美季	2005-2007	近世琉球と中日の支配論理
松浦 史子	2006-	六朝文学における『山海経』の受容を巡って—図像と文献の接点—
赤城美恵子	2006-	清代における秋審條款の研究
澤井 一彰	2006-2007	16世紀後半オスマン朝における商業と物資流通：イスタンブルを中心に
古井 龍介	2007	前近代南アジア農村社会における知：中世初期ベンガルを対象として
樋渡 雅人	2007-	ウズベキスタンにおける経済開発と共同体—社会ネットワーク分析の適用

ASNET (Asian Studies Network, 「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク」) は、東京大学において、日本・アジアと接点を持つ教育研究に従事している研究者間の研究協力や情報交換を容易にし、新しい教育や研究の可能性を探るために設立されました。文系・理系を問わず、日本以外のアジアを対象とする教育研究(従来の“アジア研究”)や、何らかの点でアジアと関連を持つ日本についての教育研究に携わる既存の各部署の研究者が、このバーチャルなネットワークによってつながり、お互いに有益な情報を交換することを第一の目標とし、同時に、このネットワークの活用によって個人の研究が進展し、新しい形の研究協力や教育が可能になることを目指しています。

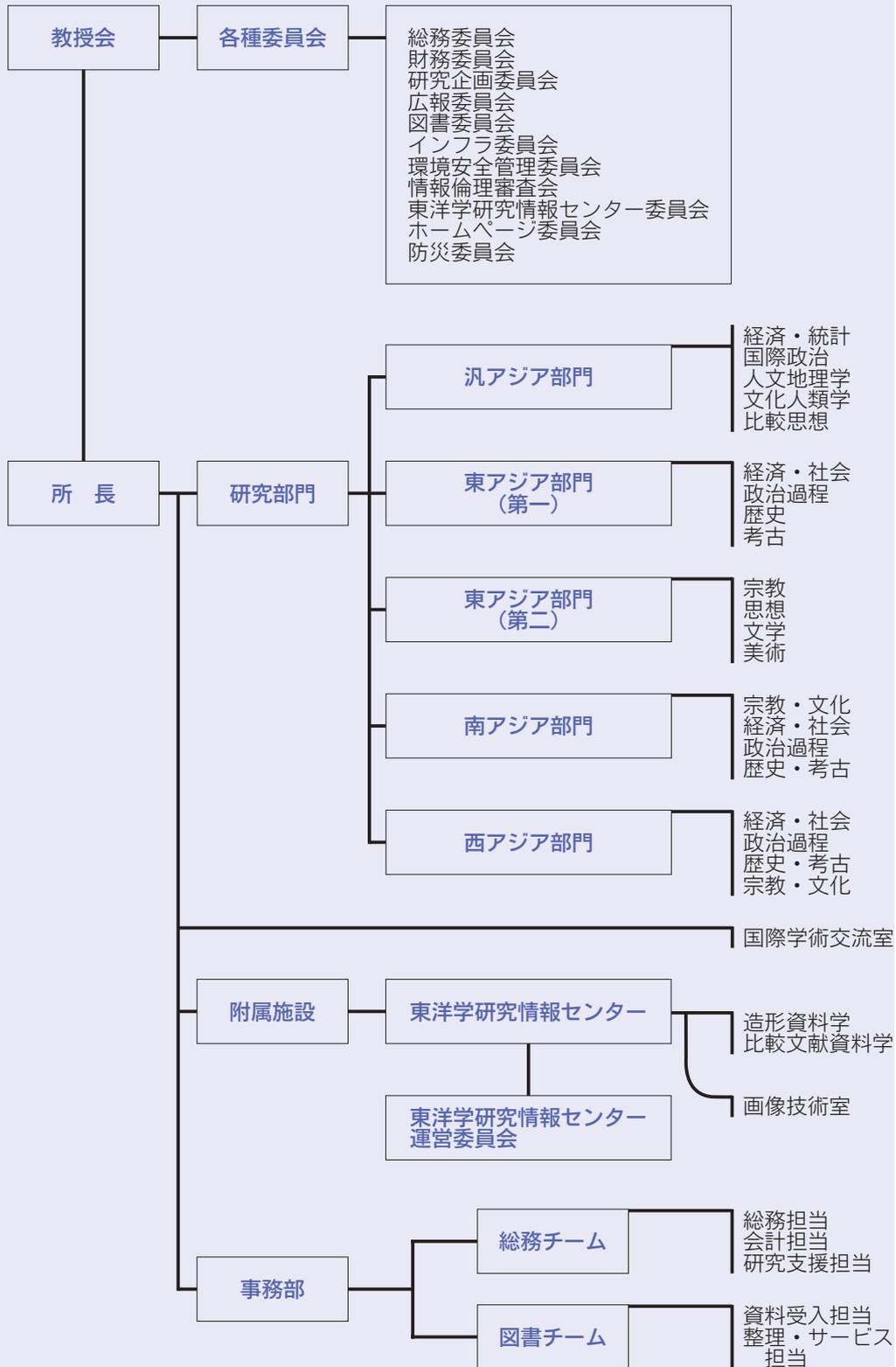
東洋文化研究所では、2005年9月に設立されたASNET推進室の活動に全面的に協力しています。

また、ASNETが企画した新しい大学院教育プログラム「日本・アジア学講座」の一環として、2007年度には「日本・アジア学の可能性」、「アジア研究のフィールドワーク」を開講しました。



ASNET ホームページ
(http://www.asnet.dir.u-tokyo.ac.jp/)

組織構成図



現教職員 (2008年4月1日現在)

所長

関本 照夫

副所長

長澤 榮治

汎アジア部門

池本 幸生 教授
田中 明彦 教授(兼)
松田 康博 准教授
(2008年4月1日採用)
松井 健 教授
菅 豊 教授
関本 照夫 教授
名和 克郎 准教授
大川 謙作 助教

永ノ尾信悟 教授
馬場 紀寿 助教

西アジア部門

鈴木 董 教授
長澤 榮治 教授
羽田 正 教授
榎屋 友子 教授
鎌田 繁 教授
森本 一夫 准教授

四日市康博

* =2007~2008年度

事務部

事務長
佐沼 繁治
総務チームリーダー(係長)
池田 洋
図書チームリーダー(主査)
風巻みどり

図書チーム(整理・サービス担当)

係長
山口 香織
係員
等々力達也
係員
安食 優子

画像技術室

技術専門職員
野久保雅嗣

東アジア部門 (第一)

高見澤 磨 教授
安富 歩 准教授
黒田 明伸 教授
真鍋 祐子 准教授(兼)
平勢 隆郎 教授
小寺 敦 准教授

国際学術交流室

ウェブ ジェイスン 准教授

主査
永嶋 智明
主任
土居 明彦

総務チーム(会計担当)

係長
池田 洋
主任
飯塚 美路
係員
千葉 大輔

東アジア部門 (第二)

丘山 新 教授
橋本 秀美 准教授
尾崎 文昭 教授
大木 康 教授
山内 文登 助教
板倉 聖哲 准教授

丘山 新 教授(兼)
玄 大松 准教授
松田 訓典 助教
(2008年4月1日採用)

総務チーム(研究支援担当)

専門員
渡邊 雅夫
係長
中村 明彦
係員
井出 利恵

非常勤講師*

片岡 洋子
喬 志航
木村真希子
鈴木 恵美
深見奈緒子
等々力政彦
池田 一人
勝沼 聡

図書チーム(資料受入担当)

係長
田崎 淳子
係員
塩川 由紀

南アジア部門

加納 啓良 教授
高橋 昭雄 教授
中里 成章 教授
古井 龍介 准教授
(2008年4月1日採用)

教職員の異動（2007～2008年）

助教授 榎屋友子

2007（平成19）年4月1日教授に昇任

准教授 橋本秀美

2007（平成19）年4月1日採用

准教授 安富 歩

2007（平成19）年4月1日転入

准教授 菅 豊

2007（平成19）年9月1日教授に昇任

准教授 関守ゲイノー

2007（平成19）年10月31日任期満了退職

准教授 ウェブ ジェイソン

2008（平成20）年1月1日採用

助教 保城広至

2008（平成20）年3月31日任期満了退職

准教授 松田康博

2008（平成20）年4月1日採用

准教授 古井龍介

2008（平成20）年4月1日採用

助教 松田訓典

2008（平成20）年4月1日採用

主査（総務担当） 関 辰男

2007（平成19）年4月1日転出

専門員（研究協力担当） 岡本勝壽

2007（平成19）年4月1日転入

庶務係長 永嶋智明

2007（平成19）年4月1日主査（総務担当）に昇任
（庶務係長兼務）

業務係長 笠井伊里

2007（平成19）年7月1日転出

会計係主任 坂上俊宏

2007（平成19）年7月1日転出

総務チーム係員（会計担当）

千葉大輔

2007（平成19）年7月1日転入

図書チーム係員（整理・サービス担当） 等々力達也

2007（平成19）年7月1日転入

研究協力係主任 中村明彦

2007（平成19）年7月1日総務チーム係長（研究支援担当）に昇任

図書第一係員 田崎淳子

2007（平成19）年7月1日図書チーム係長（資料受入担当）に昇任

総務チーム主任（総務担当）

亀原弥生

2007（平成19）年10月1日転出

総務チーム係員（研究支援担当）
井出利恵

2007（平成19）年10月1日転入

図書チーム主査（図書チームリーダー）
栗林久美子

2008（平成20）年3月31日定年退職

図書チーム係員（資料受入担当）
渋谷義治

2008（平成20）年3月31日定年退職

総務チーム専門員（研究支援担当）

岡本勝壽

2008（平成20）年4月1日転出

総務チーム専門員（研究支援担当）
渡邊雅夫

2008（平成20）年4月1日転入

図書チーム主査（図書チームリーダー）
風巻みどり

2008（平成20）年4月1日転入

総務チーム係員（会計担当）
飯塚美路2008（平成20）年4月1日総務チーム主任（会計担当）
に昇任

技術職員 野久保雅嗣

2008（平成20）年4月1日技術専門職員に昇任

歴代事務長

在職期間

山高 力三 1941.11.27-42. 9.30

根本 喜蔵 1942.10. 1-44. 7. 9

長内太郎吉 1944. 7.10-54. 7.15

工藤松之助 1954. 7.16-63.10.31

宮本 健 1963.11. 1-69. 2.28

新井 康次 1969. 3. 1-74. 3.31

斎藤 益 1974. 4. 1-77. 6.30

三浦 皓守 1977. 7. 1-81. 3.31

伊東秀三郎 1981. 4. 1-83. 3.31

岡部 藤男 1983. 4. 1-86. 3.31

木内 義一 1986. 4. 1-90. 3.31

江澤 兵治 1990. 4. 1-92. 6. 1

石川 純男 1992. 6. 1-95. 3.31

千葉 勝志 1995. 4. 1-97. 3.31

小林 邦男 1997. 4. 1-99. 3.31

石井 金夫 1999. 4. 1-2001.3.31

柿沼 肇 2001. 4. 1-2004.3.31

小川 勝美 2004. 4. 1-2006.9.30

佐沼 繁治 2006.10. 1- 現在

名誉教授

称号授与

川野 重任 1972. 5

窪 徳忠 1974. 5

荒 松雄 1982. 5

中根 千枝 1987. 5

尾上 兼英 1988. 5

山崎 利男 1990. 5

板垣 雄三 1991. 5

池田 温 1992. 5

山田 三郎 1992. 5

田仲 一成 1993. 5

友杉 孝 1993. 5

松丸 道雄 1995. 5

松谷 敏雄 1997. 5

蜂屋 邦夫 1999. 5

岡本 サ工 2001. 5

後藤 明 2002. 5

濱下 武志 2004. 5

猪口 孝 2005. 5

柳澤 悠 2005. 5

原 洋之介 2006. 5

財 政 (2007 年度)

1. 財政

2007 年度			
収入 (千円)		支出 (千円)	
大学運営費	200,072	教育研究経費	68,396
部局長裁量経費	10,741	一般管理費	11,360
間接経費	10,381	物件費	152,068
科学研究費	108,450	旅 費	84,667
共同研究	1,818	賃金・謝金等	37,446
私学研修員	216	翌年度繰越	73,562
寄付金	6,870		
前年度からの繰入	88,951		
合 計	427,499	合 計	427,499

2. 科学研究費

2007 年度		
研究種目	交付決定額 (千円)	件数
特定領域研究	16,900	2
基盤研究 S	29,700	1
基盤研究 A	17,600	2
基盤研究 B	19,400	4
基盤研究 C	1,900	2
若手研究スタートアップ	2,350	2
若手研究 B	1,400	1
特別研究員奨励費	12,500	13
研究成果公開促進費	6,700	2
合 計	108,450	29

3. その他の経費

稲盛財団研究助成金

韓国海洋水産開発院助成金

サントリー文化財団助成金

財団法人 JFE 21 世紀財団アジア歴史研究助成金

大日本印刷株式会社との共同研究

施 設

1941 年 11 月	東京帝国大学附属図書館内に新設		建物面積 6,577 m ²
1948 年 9 月	文京区大塚町 56 旧東方文化学院建物に移転。附属図書館内に分室をおく 敷地面積 5,081.22 m ² 本館建物面積 3,012.5 m ²	1984 年 3 月	全面改修工事完成
1965 年 10 月	本郷構内新庁舎第 1 期工事完成により一部移転	2006 年 2 月	研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明 同年 7 月以降 研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施
1968 年 7 月	本郷構内新庁舎に全面移転完了	2007 年 8 月	研究所建物耐震補強・改修工事開始
1982 年 3 月	総合研究資料館と交換分合し、全館を使用	2008 年 3 月	工事完了
		5 月	仮移転先からの再移転を開始

【主要所蔵図書】

[大木文庫]

本研究所創設時に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。公牘類の数百部は本文庫の柱梁をなし、法律関係の貴重書をはじめ、明清以後の時期の研究には不可欠の蒐集資料である。1959 年に『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』が編纂され、刊行された。

[帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書]

1944 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

[東方文化学院旧図書]

1929 年に、東方文化に関する研究機関として、外務省所管の東方文化学院東京研究所が創設されたが、1948 年に廃された。その旧蔵書と漢洋あわせて 103,587 冊が、1967 年 3 月に本研究所に移管された。漢籍の中核は、1929 年に中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書である。

[松本忠雄氏旧蔵書]

1949 年度科学研究費により松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。とくに近代中国研究資料として重要なものがある。

[雙紅堂文庫]

1951・53 両年度科学研究費により、長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類である。1961 年 1 月、本研究所創立 20 年にあたり、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

[清野文庫]

1952・53 両年度科学研究費により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする。1978 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。

[矢吹慶輝氏旧蔵書]

1952 年度科学研究費により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英仏独のマニ教の文献を中心とし、仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

[下中文庫]

下中弥三郎氏より、1953 年 1 月から 1957 年 6 月までの、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊の寄贈を受けた。

とくに中国書は、当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅している。

[東京銀行調査部旧蔵資料]

1959・60 両年度にわたり、東京銀行調査部所蔵の経済関係書を主とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

[仁井田文庫]

本研究所名誉教授仁井田陞氏の逝去（1966 年 6 月）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。大木文庫とともに旧中国の社会研究に重要なものである。1999 年 3 月に『東洋学文献センター叢刊 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 附和洋書』を刊行した。また清代公私文書類も「東京大学東洋文化研究所 仁井田陞博士蒐集中國文書目録（稿）」として整理した。

[我妻文庫]

我妻栄氏の逝去（1973 年 10 月）後、所蔵の和洋法学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所はとくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。1982 年 3 月に『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』を刊行した。

[倉石文庫]

1975 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、1981 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点、現代中国書 2,300 冊、および和洋書 3,400 冊を購入した。

[江上文庫]

1981・82・84 各年度にわたり、本学名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書の一部約 2,550 点を購入した。

[Daiber Collection I, II]

1986・87・94 年度にわたり、東洋学文献センターと協力し、ハンス・ダイバー氏の蒐集した計 487 点の写本を購入した。イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。1988/96 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection I/II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber を刊行した。

[文淵閣四庫全書影印本]

1988 年度に文淵閣本四庫全書影印本（索引つき）全 1,501 冊を購入した。清代以前の中国の古典文献を網

羅した最も基本的な叢書で、中国研究上不可欠の重要性をもっている。

[オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報]

1989年度に、マイクロフィッシュ化された資料一式を購入した。前者はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850年～1921年）の索引書数百巻分を網羅し、後者はインドネシアのオランダ植民地政府が1928年～1939年に公布した官報の集成である。

[乾隆版大蔵経]

1990年度に全724函（毎函10冊）、大清三蔵聖教目録一函（5冊）を購入した。中国最後の木版大蔵経で、1,657部の仏教典籍が収録されている。漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみで、きわめて貴重な資料である。

[Ouseley Collection]

イギリスの外交官で東洋学者のG. Ouseley 卿（1770—1844）の旧蔵書の一部。17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記とペルシア文学作品を主とした60点、全106冊からなる。Ouseley 自身の書き込みが随所に見られる点など、資料的価値が高い。

[Müteferrika Collection]

1727年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍17点。イスラム世界における最早期の刊本。

[南アジア伝導教団資料集成]

南アジア各地で伝導活動を行ったキリスト教団の、18世紀末から20世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等を含んだマイクロフィッシュ資料である。

[Indonesian Monographs, 1945—1973]

オランダの王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した、独立後インドネシアの社会科学関係出版物3,258点をマイクロフィッシュにまとめたもの。内容はきわめて多彩で、インドネシア現代史の研究に不可欠の資料集である。

[今堀文庫]

広島大学名誉教授今堀誠二氏の逝去（1992年10月）後、所蔵の漢籍300点、中国書2,000冊、文書資料500点を購入した。近現代中国の社会史資料、華僑史資料など多くの原資料を含む。（1994年度一般設備費）

[東アジア宗族社会史関係資料]

東アジア全域にわたる宗族社会史の比較研究に重要な資料集。朝鮮族譜集成494冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料2,263冊からなる。

族譜、社会、華人史の基本資料として貴重な資料である。（1995年度一般設備費）

[中国西北文献叢書]

陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆などの中国西北地方に関する、歴史、地理、民俗、文学そのほかの諸分野の基本文献を網羅した叢書。（1995年度一般設備費）

[オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション]

トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類、定期刊行物。19世紀初頭オスマン帝国時代の国家年鑑や、西アジア各地方およびバルカンに関する公的な年鑑など、政治、社会、経済から文化にいたる広汎な分野を網羅し、近現代の西アジア研究者にとって類例の少ない貴重な資料群である。（1996年度一般設備費）

[西アジア関連写本集成]

ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語を中心としたマイクロフィッシュによる写本集成。クルアーン学から、法学、文学、自然科学、歴史学、宗教諸学を含むイスラームを中心とした西アジアの思想・文化・歴史の研究に不可欠の資料である。（1996年度一般設備費）

[中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料]

1997年度に標記档案資料のマイクロフィルムを購入した。内容は「宮中硃批奏摺財政類」「軍機処録副奏摺全国水利雨水自然災害資料」「内閣京察冊」「宮中履歴片」「戸部一度支部棒銀米冊」「琿春副都統衛門档案」「刑法部胎谷案」「吏部造送封贈姓氏冊」「清代琉球档案史料」である。これらは総数一千万件におよぶ中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部を成すものであり、清代中国の政治・制度・経済・社会の分析において極めて重要な第一次資料である。（1997年度一般設備費）

[夕嵐草堂文庫]

本学名誉教授前野直彬氏の逝去（1998年1月）後、小説類に特色を持つ所蔵の漢籍約500点4,400冊を購入し、「夕嵐草堂文庫」と名付けた。中に貴重な版本を含んでいる（1998年度リーダーシップ支援経費）。2003年3月に『東洋学研究情報センター叢刊2 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録』（山之内正彦編）を刊行した。

[伊藤文庫]

京都大学名誉教授故伊藤義教氏の古代・中世イラン関係旧蔵書849冊。古代・中世イラン語テキスト類を中心としている。『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤

義教文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学
研究情報センター，2004年）が刊行されている。

[田中則雄氏旧蔵書]

田中則雄氏が収集したインドネシアに関するオランダ
語を中心とする洋書文献コレクション。『東京大学東
洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』（東京大学
東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2002
年）が刊行されている。

[安田文庫旧蔵『論語』コレクション]

昭和戦前期における古文書・古籍のコレクションとし
て名高い「安田文庫」旧蔵の『論語』各種和刻本9点
ほか2点を，収集者安田善二郎（二代目）氏の直孫で
ある安田弘氏から寄贈されたもの。なかでも正平版
『論語』（単跋早印本，室町時代，15世紀前半の刊本）
は，日本で仏教経典以外では最初の木版印刷の書籍で
あるとともに，六朝時期における『論語』の姿を伝え
るテキストとして，今日でもきわめて珍重されている
ものである。

[上村文庫]

マハーバーラタの日本語全訳など，古典サンスクリッ
ト詩学に関する研究で多大な成果をあげられた東洋文
化研究所故上村勝彦教授の旧蔵書で，古典サンスクリッ
ト文学・詩学，インドの古典学問，宗教・哲学に関す

【主要所蔵資料】

[殷代甲骨]

本研究所所蔵甲骨は，次の三部分からなる。第一は，
故河井仙郎氏旧蔵の1,708片で，1979年に現蔵者井
上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧
蔵の393片で，1979年に購入した。第三は旧蔵者三
浦清吾氏より寄贈された2片である。合計2,103片
に達し，京都大学人文科学研究所に次ぐ，わが国有数
の蒐集である。これは，整理・綴合の上，松丸道雄
『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋
文化研究所報告1983年）として刊行された。

[中国歴史古銭・銭范]

旧東方文化学院の蒐集品で，殷代の貝貨，戦国時代の
布銭・刀銭・郢爰からはじまり，歴代の代表的貨幣を
収蔵する。約1,250点の古銭と，10点の銭の范模を
含む。

[中国考古資料]

上記の甲骨，古銭以外に，瓦当約110点，鏡，戈，
戟，鏟などの青銅器，玉器，土器，磚，磚製買地券，

る文献を主体とする658点のサンスクリット語典籍
である。

[タイ語文献コレクション]

友杉孝本学名誉教授からご寄贈いただいた文献2,185
点を基礎に，2,728冊のタイ語文献から構成されてい
る（2006年3月現在）。東南アジア歴史・地理を中
心にした貴重な資料である。

[荒木文庫]

我国の波斯（ペルシア）語研究の先駆者である荒木茂
氏が財団法人啓明会の補助を受け，1922年から1931
年にかけて収集された波斯（ペルシア）関係の辞典，
紀行，歴史，言語，美術等に関する洋書938点1,112
冊である。『東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫
目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報
センター，2007年）が刊行されている。

[両紅軒文庫]

伊藤漱平・東京大学文学部元教授の旧蔵書。明末清初
の文人李漁の諸作品及び清代の小説『紅樓夢』を中心
に，作品の版本・研究書・翻訳を網羅している。天下
の孤本である『嬌紅記』（鄭雲竹刊本），『紅樓夢』最
初期の印本である「程甲本」などを含む。現在480点。
継続受入中。

壁面片，俑，仏像，衣服，室内装飾品，土俗品がある。
大部分は旧東方文化学院が購入し，本研究所に移管さ
れたものである。

[中国絵画資料（原版・焼付写真・カラーズライド・ディ ジタル画像等）]

米国，カナダ，欧州，アジアの美術館，個人蒐集家が
所蔵する中国絵画，および日本現存の中国絵画に関す
るものが主体で，その他に米国ミシガン大学アーカイ
ヴより購入した台北故宫博物院所蔵中国美術作品の焼
付写真，東京国立文化財研究所原版からの羅漢・十王
国の焼付写真等があり，現在約20万点にのぼる。「東
洋学文献センター叢刊」として10冊の目録が1977～
83年，1992年～98年の両度にわたって刊行され，
図録は東京大学出版会より『中国絵画総合図録』（全
5巻）が1982年～83年，『同 続編』（全4巻）が
1998年～2001年の両度にわたって刊行された。現
在，第三次世界調査を実施中である。

[中国清代・民国期の文書資料]

17世紀から20世紀におよぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、宝応、鳳山などの土地文書を中心とし、その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は、1983年～86年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（閲覧準備中。）

[内蒙古出土学術資料]

江上波夫名誉教授が戦前に内蒙古で発掘・採集した資料約1万点が、1983年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが、圧倒的多数は未発表のものである。

【交流協定】**[香港大学アジア研究センターとの学術交流協定]**

本研究所が交流拠点の役割を果し、東京大学の海外学術研究拠点を強化する一環として、1995年10月本研究所は香港大学アジア研究センターとの間に交流協定を結び、共同研究を開始し、2000年10月および2005年10月にそれぞれ5年延長の更新をした。協定の内容は、(1)共同研究の推進、(2)研究者の交流、(3)資料・研究情報の交換の三項からなる。

[中国・復旦大学との学術交流協定]

東京大学と復旦大学との間における学術交流協定は、1991年10月に結ばれた。この協定の運用は、東京大学では、当初理学部が担当部局であったが、1996年に更新期限となり、その後東洋文化研究所が担当することとなった。2006年に再更新している。交流の内容は、両校間における(1)教員、研究者、院生、学生の交流、(2)共同研究の計画と実施、(3)講義とセミナーの実施、(4)学術情報および学術刊行物の交換、などである。

[シンガポール国立大学人文・社会科学部]

1997年4月にシンガポール国立大学人文・社会科学部社会学科と結んだ学術交流協定を2000年1月に同学部との5ヵ年間の協定に改定し、2005年1月に更新した。研究者の交流と研究資料の相互交換を主な目的とするこの協定は、当研究所の先端地域研究プログラム「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」を効果的に推進するうえでも、重要な役割を果たすもの

[インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリーおよびインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で、写真、実測図などが主なものである。1959年～62年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第1巻（1967）、第2巻（1969）、第3巻（1970）が刊行された。

[西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として、1956年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡14か所を発掘・調査した結果、収集したものの数は数万点に達し、大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。1958年から1984年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20冊が刊行されている。

と位置づけられている。またこれに加えて2006年1月には、東洋文化研究所が担当部局となり、東京大学とシンガポール国立大学との大学間協定が締結された。上述の部局間協定は2010年1月まで継続の予定である。

[インドネシア大学日本研究センター]

インドネシア大学日本研究センターにおける共同研究の推進と人材育成のために1997年以来国際協力事業団（JICA）による協力プロジェクトが行われているが、当研究所は社会科学研究所と共同でこのプロジェクトの実施のための要員の派遣に当たってきた。この事業を制度的に保証する措置として、2000年9月に同センターとの間で5ヵ年間の学術交流協定を結んだが、2005年3月に東京大学とインドネシア大学が全学レベルの交流協定を結んだ結果、そのもとでこれらの交流がいっそう活発に行われることとなり、部局間協定は同年9月をもって終結した。

[ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部]

2005年8月にブルネイにおける唯一の大学で、国立の総合大学でもあるブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とする部局間交流協定を締結した。1998年から東南アジア研究コースを設けて同分野での対外交流を望んでいる同学部からの要請に応じたものであるが、東洋文化研究所としてもブルネイとの交流を深めることにより、東南アジア地域とくにマレー世界とボルネオ島の文化・歴史・社会についての知見を拡大するこ

とが期待されている。

[フランス高等研究院]

2005年5月に、本研究所と東京大学史料編纂所が共同で、フランス高等研究院（パリ）と5年間の学術交流協定を締結した。フランス高等研究院は、19世紀後半に設立された大学院大学で、フランスにおける歴史学・宗教学・言語学などのいわゆる人文学研究の拠点である。両機関は、2002年（パリ）と2004年（東京）に開催された「日仏コローク」ですでに学術交流を開始しており、協定の締結によって、研究者の交流、共同研究の実施、資料・情報の交換などの実質的な研究協力がさらに進むことが期待される。

[カルカッタ大学歴史学部]

本交流協定は2006年1月にコルカタで調印された。カルカッタ大学は創立150周年を迎えるのを機会に、日本における南アジア研究のセンターの一つである東

洋文化研究所との交流を深め、さらにそれを東京大学全体に拡大することを希望している。東洋文化研究所としては、インド東部の中心的な大学であるカルカッタ大学との学術交流を通じて、南アジア世界、とくにベンガル、アッサム、オリッサ、東部諸州などの地域の宗教・文化・歴史・社会に関する研究を一層進展させることを期待している。

[ベトナム・タイグエン大学経済経営学部]

2006年1月にタイグエン大学経済経営学部と5年間の学術交流協定を結んだ。タイグエン大学はベトナム中部高原にあり、ラオス・カンボジアとの国境に接し、多くの少数民族が暮らし、また世界第2位のコーヒー輸出国であるベトナムの主要産地である。この地域は東南アジア研究のフロンティアのひとつであり、経済・文化・環境などの分野で共同研究を行う。



第4回東アジア研究促進ネットワーク会合
2008年3月10～12日（於：チュラロンコン大学・タイ国）
同会合については、19ページ参照。撮影：野久保雅嗣

【刊行物一覧】

東洋文化研究所刊行物 (2006・2007年度)

東洋文化研究所紀要

●第150冊 (2007年3月)

- 呂静 中国古代盟書遺物に関する一考察
- 黄仕忠 雙紅堂文庫藏清末民初北京木刻、石印本『唱本』目録
- 林鳴宇 宋代天台教学の「十類」(下)
- 青木健 故・伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーカルド』第3巻訳注・その5
- 田中公明 *Buddhajñānapāda* の *Samantabhadra nāma sādhana* における曼荼羅の供養次第
- Kei KATAOKA Critical Edition of the *Śāstrāmbha* Section of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāmañjarī*
- 大川謙作 一妻多夫婚研究における文化 vs 社会経済モデルの再検討——チベット系諸民族における婚姻諸形態とその選択をめぐる——
- Natenapha WAILERDSAK (YABUSHITA) Japanese Business and Economy Studies in Thailand
- 小泉順子 シャムにおける中国廟に関する一考察——「廟に関する省令」(1921年)をめぐる——
- Kazuya YAMAMOTO Vietnam from the Perspective of the Asia Barometer Survey: Identity, Image of Foreign Nations, and Global Concerns

●第151冊 (2007年3月)

- 黄仕忠 雙紅堂文庫藏民初北京排印本唱本目録
- 近藤龍哉 胡風と矢崎弾——日中戦争前夜における雑誌『星座』の試みを中心に——
- 松浦史子 江淹「遂古篇」について——郭璞『山海経』注との関わりを中心に——
- 中里成章 日本軍の南方作戦とインド——ベンガルにおける拒絶作戦(1942~43)を中心に——
- 青木健 故・伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーカルド』第3巻訳注・その6
- 高島淳 *Abhinavagupta* 作 *Tantrāloka* 第13章 訳と注解——Jayaratha 註釈付(2)——
- 志賀美和子 マドラス州における非バラモン運動の展開——共産主義との関係を中心に——
- Hiroyuki HOSHIRO A Japanese Diplomatic Victo-

ry?: Japan's Regionalism and the Politics between Japan, the United States and Southeast Asia, 1965-1966

●第152冊 (2007年12月)

- 赤城美恵子 清朝初期における「恤刑」(五年審録)について
- 安富歩 論語の論理構造
- 伊藤徳也 デカダンスの精練——周作人における「生活の芸術」——
- 陳志勤 中国紹興地域における自然の伝統的な管理——王壇鎮舜王廟における「罰戯」・「罰宴」を中心として——
- 喬志航 中国における「新史学」の形成と近代
- 西沢文仁 サキャパンディタの認識手段論——認識手段の定義をめぐる——
- 鈴木隆泰 如来の出現と衆生利益を巡る思想史——特に如来蔵系経典に焦点を当てて——
- 八尾史 根本説一切有部律に引用される *Mahādevasūtra*——テキストおよび訳注——
- 田中公明 『金剛場莊嚴タントラ』の成立とインド密教史上における位置
- 栗田博之 サゴから石油へ——パプアニューギニア、ファス族における資源開発とその影響——
- 佐藤齊華 「私は行かないといった」——ネパール・ヨルモ女性の結婚をめぐる語りにおける主体性——
- 前川亨 北京市内旧工商ギルド会館調査報告初編(上)——『仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集』所載会館の再調査——
- Kei TAKAOKA A Critical Edition of *Śābarabhāṣya* ad 1.1.6-23: *Śabdanityatvādhikarana*
- Kensaku OKAWA Lessons from Tibetans in Taiwan——Their History, Current Situation, and Relationship with Taiwanese Nationalism——
- ##### ●第153冊 (2008年3月)
- 喬志航 王国維歴史学の展開——「新史学」との関わりにおいて——
- 加藤博 砂漠に消えた「革命」(2)——掘り起こされる近代エジプト遊牧民「革命」——
- 宮脇聡史 シン枢機卿とフィリピン——序論的考察——
- 加納啓良・大澤篤 植民地期インドネシアのコーヒー生産——農園データベースの構築と分析——

前川亨 北京市内旧工商ギルド会館調査報告初編
(下)『仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集』
所載会館の再調査

今村弘子 中朝鮮経済関係に関する考察

塩田光喜 ログスの誕生——ニューギニア高地にお
ける罪と律法の神学と権力

Kazuya YAMAMOTO The Third Map of the Asia-
Pacific Religion: A New Approach to Cognitive
Structure

東洋文化

●第 87 号 (2007 年 3 月)

特集 イスラーム思想の諸相

高橋英海 シリア語からアラビア語, そしてアラビ
ア語からシリア語へ

吉田京子 12 イマーム派ガイバ論におけるヒドル
(ハディル) 伝承の展開

野元晋 4/10 世紀イスマール派の位階制論に
おけるターミノロジー——ラズィーを中心と
して——

菊地達也 ハムザ書簡群に見るドゥルーズ派終末論
の形成過程

小林春夫 シャハラズーリーによるスフラワルディー
著『開示の書』注釈——理性的魂に関する序論
のテキスト校訂・翻訳・訳注——

藤井守男 ペルシア語タフスィール『神秘の開示』
に見る神秘主義的表象世界

竹下政孝 イブン・アラビー『叡智の宝石』注釈書
の系譜——ザカリヤ章を中心にして——

鎌田繁 幸福と哲学者の営み——モッラー・サドラー
の実体運動説の意味——

仁子寿晴 中国思想とイスラーム思想の境界線——
劉智の「有」論——

杉田英明 『アラビアン・ナイト』原典購読事始
——昭和前期におけるアラビア語研究の先達た
ち——

鎌田繁 おわりに

●第 88 号 (2008 年 3 月)

特集 米・砂糖・コーヒーから見た現代アジア経
済史

加納啓良 20 世紀アジアにおける砂糖, 米, コー
ヒー——生産・貿易統計による序説的経済史的
考察——

高橋昭雄 ビルマ米輸出統計の再検討と「国内」,
国境, 海外輸出入の変遷

水野明日香 戦後初期から 1950 年代におけるビル
マの米輸出の変化——国際緊急食糧委員会によ
る輸出管理の問題を中心に——

宮田敏之 タイ産高級米ジャスミン・ライスと東北
タイ

加納啓良 インドネシアの砂糖, 米, コーヒー, 茶
——長期統計で見る生産と輸出入の推移——

三本木一夫・池本幸生 インドネシア・マンデリン
コーヒーの発展過程

大澤篤 両大戦間期日本の砂糖市場構造と黒糖

久米高史 モーリシャスより見たる環インド洋砂糖
貿易 1840~1939 年

International Journal of Asian Studies

第 3 巻第 2 号 (2006 年 7 月)

Mara PATESSIO The Creation of Public Spaces
by Women in the Early Meiji Period and the
Tōkyō Fujin Kyōfūkai

Michiko GOTO The Lives and Roles of Women
of Various Classes in the *1e* of Late Medieval
Japan

Muping BAO Trade Centres (*Maimaicheng*) in
Mongolia, and Their Function in Sino-Russian
Trade Networks

Law, State and Society in China [5]

Osamu TAKAMIZAWA Legal Troubles and Their
Resolution in China: The Interaction of
Shoulizhe and *Xinfuzhe*

Review Articles

Shigeki MORI The "Washington System" and Its
Aftermath: Reevaluating *After Imperialism* from
the Perspective of the Japanese Historiogra-
phy

Ian ASTLEY The Continuing Conclusion to the
Pacific War: Samuel Yamashita's *Leaves from
an Autumn of Emergencies*

第 4 巻第 1 号 (2007 年 1 月)

Yoshihiko AMINO Medieval Japanese Construc-
tions of Peace and Liberty: *Muen, Kugai* and
Raku, Translated by William Jonston with a
Foreword by Eiji Sakurai

Aya IKEGAME The Capital of Rājadharmā: Mod-
ern Space and Religion in Colonial Mysore

Asian Monetary History Revisited [1]

Introduction to the New Series by Akinobu KURODA

Richard von GLAHN Foreign Silver Coins and Market Culture in Nineteenth-Century China

Law, State and Society in China [6]

Susumu FUMA Litigation Masters and the Litigation System of Ming and Qing China, Translated by Michiko Okubo

State of the Field

Barbara Watson ANDAYA Studying Women and Gender in Southeast Asia

第4巻第2号 (2007年7月)

Yoshihiko AMINO Medieval Japanese Constructions of Peace and Liberty: *Muen, Kugai and Raku*: Supplementary Notes, Translated by William Johnston

Masahiro OGIYAMA Domestic Service in Industrializing Japan: The Job Choices of Unmarried Young Women in the Sennan District, Osaka Prefecture, 1893-1927

Asian Perspectives

Masashi HANEDA Modern Europe and the Creation of the "Islamic World", Translated by Gaynor Sekimori

Asian Monetary History Revisited [2]

Akinobu KURODA Introduction: Currency Assortment in the China-Japan Trans-Maritime Region

Hiroyuki HONDA Copper Coinage, Ruling Power and Local Society in Medieval Japan, Translated by Michiko Okubo

Law, State and Society in China [7]

Jérôme BOURGON Aspects of Chinese Legal Culture- The Articulation of Written Law, State, and Society: A Review(Part One)

Review Article

Minghui HU Impossible Choices

第5巻第1号 (2008年1月)

Meng-Ching MA Linking Poetry, Painting, and Prints: the Mode of Poetic Pictures in Late Ming Illustrations to *The Story of the Western Wing*

Asian Monetary History Revisited [3]

Eiji SAKURAI Currency and Credit in Medieval Japan, Translated by Michiko Okubo

Law, State, and Society in China [8]

Jérôme BOURGON Aspects of Chinese Legal Culture- the Articulation of Written Law, State,

and Society: a Review(Part Two). Private Law and Private Lawyers: a Discussion on the "Fields" of Law

Review Articles

Dorothy KO The Creation of Patriarchy in Japan: Wakita Haruko's "Women in Medieval Japan" from a Comparative Perspective

Takashi SAKAI Taiwanese Studies of Trade Ceramics: At the Intersection of Indigenous and International Historiography, Translated and edited by Kazuo Morimoto and Gaynor Sekimori

東洋文化研究所刊行物

(1995年以降全リスト) *印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

東洋文化研究所紀要別冊

50. 岡本さえ『清代禁書の研究』 1996
- * 51. 丸尾常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- * 52. 末成道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- * 53. 蜂屋邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- * 55. 平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
56. 上村勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
57. 岡本さえ『近世中国の比較思想』 2000
- * 58. 橋本秀美『義疏學衰亡史論』 2001
- * 59. 大木康『馮夢龍『山歌』の研究』 2003
60. 加納啓良『現代インドネシア経済史論』 2003
61. ティムール・ダダバエフ『マハッラの実像』 2006
62. 小寺敦『先秦家族關係史料の新研究』 2008

東洋文化研究所叢刊

- * 15. 平勢隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- * 16. 蜂屋邦夫『中国の道教 その活動と道觀の現状』 1995
- * 17. 羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996

- * 18. 平勢隆郎『中國古代紀年の研究 天文と曆の検討から』 1996
- * 19. Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, eds., *Values and Life Styles in Urban Asia: A Cross-Cultural Analysis and Sourcebook* 2005
- * 20. 大田省一・井上直美（編）『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』 2005
- 21. 羽田正（編）『ユーラシアにおける文化の交流と転変』 2007

東アジア部門美術研究分野報告

『中國繪畫総合圖録 續編』

- * 第一巻 アメリカ・カナダ篇 1997
- * 第二巻 東アジア・ヨーロッパ篇 1997
- * 第三巻 日本篇 1999
- * 第四巻 総索引 2000

蔵書目録

- *『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版
1981, 1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』
1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』
索引 1996

その他

- 『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- *『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1999
- * Conference Proceedings, *Asia in the Twenty-First Century: Toward a New Framework of Asian Studies* 1996
- *『アジアを知れば世界が見える』 2001
- 『アジア学の将来像』 2003
- 『BI』（超域連携研究プログラム「アジアの『美』の構築」Annual Report）Vol. 1, Vol. 2
2007, 2008
- 『アジア学の明日にむけて』 2008
- 『アジア古籍保全講演会記録集』
第1回～第3回 2008

東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物 (1995年以降全リスト) *印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

●東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録 2003
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録I 明治の営業写真家 山本讃七郎写真資料目録その1 2006
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーナカルド』第3巻(1) 2007
- 第9輯 Old Maps of Tuva 1 2008

●東洋学文献センター叢刊

- 第65輯 許舒博士所蔵 商業及び土地契約文書 乾泰隆文書(1) 潮汕地区土地契約文書 1995
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版(東アジア編) 1997
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯 23 天津史文献目録 1998
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999

●大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本(ダイバーコレクションII)目録] 1996